

平成 30 年度 本部事業計画書（案）

社会福祉法人 ささゆり会

平成 30 年度は、介護報酬の改定があり、施設系サービスは、プラス 0.54%改定となりました。そして、在宅系サービスはマイナスの改定となっています。特にデイサービスでは、大幅なマイナス改定になっています。ただし、自立支援に向けた介護には、新しく加算が出来ています。お世話型の介護から自立支援型の介護へのシフトした施設が加算を多く取得できるようになっています。これを踏まえて、介護の質を考えていく必要があります。

本年度もベトナムからの EPA(経済連携協定)の受け入れを行います。昨年度は、11 名受け入れをしました。本年度も昨年と同等に 14 名の EPA 候補生の受け入れ予定になります。益々、EPA 候補生が多く法人に入り、メンタルケアや生活支援、日本語や介護福祉士の勉強支援の負担が多くなると考えられます。上手く時間を活用し効率よく日本語及び介護福祉士の資格取得勉強にも力を入れます。

4 月に姫路市西庄にサンライフ西庄がオープンになります。特養 29 床、ショートステイ 9 床、グループホーム 18 床の地域密着型の施設になります。サンライフ西庄では、多くの ICT を導入し、職員の業務の負担軽減を目指し、介護の時間を多く取れるように工夫した施設になります。昨年度、介護現場では、介護の見える化を進めていく事を掲げていました。サンライフ西庄を筆頭に ICT を導入し、業務の負担を軽減するとともに仕事の生産性を上げていく取り組みを行います。改めて、業務の見直しを行い、働き方を見直す。今までの仕事方法を見直すことで、職場環境を整え、改善に向けた取り組みを行う。そして、介護の質を高め、利用者様、家族様から安心感・信頼感を持っていたくために接遇の向上を推進します。

介護看護人材の確保は、年々難しくなっています。法人で採用担当専任を配置し人材の確保を進めていきます。今までの採用方法では、困難が予想されますので、新しい採用方法も取り入れて行きます。

運営スローガン：『活力ある職場を提供し、生産性を上げる』

1. 本年度の重点課題

I. 施設運営の改革に不可欠な諸事業の充実

- ・ サンライフ西庄の全床開設
- ・ 外国人技能実習生受け入れの為の協同組合の開設

II. 主体的経営の基盤強化に不可欠なシステム及び仕組みの構築

- ・ ICT 導入による業務改善

III. 施設の運営や活動に不可欠な人材育成と確保

- ・ 新卒者、中途者採用促進の為、専門担当者の配置推進
- ・ EPA(経済連携協定)の研修生の採用と育成

2. 定例会議

ア. 理事会

当法人の最高決議機関として、事業報告・決算の承認・事業計画・予算の承認その他重要事項決定のため、以下の会議を行う。

会 議 名	内 容	時 期
第 1 回理事会	1. 事業報告・決算報告の承認 2. 事業計画に基づく諸事業の実施状況と課題 3. その他諸規定の検討	平成 30 年 6 月
第 2 回理事会	1. 経営戦略について 2. 各事業所の経営内容について	平成 30 年 8 月
第 3 回理事会	1. 経営戦略について 2. 各事業所のサービス内容について	平成 30 年 10 月
第 4 回理事会	1. 県、市による指導監査の是正監査 2. 上半期事業推進報告と課題の検討 3. その他諸規定の検討	平成 30 年 12 月
第 5 回理事会	1. 経営戦略について 2. 各事業所の人材確保について	平成 31 年 2 月
第 6 回理事会	1. 事業計画書 2. 法人組織・諸規定の検討、その他	平成 31 年 3 月

イ. 監事会

事業の執行状況及び決算についての報告と、理事会に意見を述べるため以下の会議を行う。

会 議 名	内 容	
第 1 回監事会	1. 前期事業報告・決算の監査 2. 事業計画に基づく諸事業の実施課題について 3. その他運営上の課題について	平成 30 年 6 月
第 2 回監事会	1. 上半期事業推進状況の監査 2. 事業計画に基づく諸事業の実施状況と課題 3. その他施設運営上の課題について	平成 30 年 12 月

ウ. 評議員会

当法人の役員の選任と、法人運営の基本ルール・体制の決定と事後的な監督を行う機関として位置づけ、必置の議決機関として以下の会議を行う。

会 議 名	内 容	時 期
第 1 回評議委員会	1. 充実残高計画の承認 2. 平成 30 年度計算書類の承認 3. 定款施行細則の承認	平成 30 年 6 月
第 2 回評議委員会	1. 事業計画・予算案の承認 2. 法人組織・諸規程の承認、その他	平成 31 年 3 月

3. 介護保険サービス推進委員会

利用者様の立場に立った介護と生活の質の向上を目指し、以下の会議を行う。

会 議 名	内 容	時 期
第 1 回推進委員会	1. 上半期諸事業の取組み結果と課題について 2. 虐待防止研修の推進状況について	平成 30 年 12 月
第 2 回推進委員会	1. 平成 31 年度事業計画御立・魚崎事業所の摺り合わせ 2. 活力ある職場創り推進状況について	平成 31 年 3 月

以上

平成 30 年度 特別養護老人ホームサンライフ御立

事業計画書（案）

平成 30 年度ささゆり会経営スローガンである「活力ある職場を提供し、生産性を上げる」を基に活力ある職場作りへの参画を行う。更に、サンライフ西庄の竣工により、経験ある職員の異動によりサービスの質の確保が重要課題となる。

また、介護報酬の改定が行われるため、改定内容に即した必要要件を実施していく。

1. 人材育成について

I. 中途採用者教育について

中途採用者に 1 ヶ月程度同じ勤務につき指導を行う。経験ある職員も初めて介護をする職員にも、不安を減少させ、専門的な介護提供が行えるよう支援し、退職せずに続けていける体制を構築する。また、職場での悩みを聞くことにより、「見てくれている人がいる」・「聞いてくれる人がいる。」という安心感を持ってもらうことにより仕事へのやりがいに繋げていく。

II. EPA 候補生育成について

1 年目の候補生については、1 名の個人指導者をつけシート項目に沿った指導を行っていく。また、相談員、主任との話し合いの場を設けることにより、環境の変化による悩みや不安を取り除き、勉強できる環境を整える。医療や認知症・看取り等について必要な専門知識・家族対応・気づきの視点を持てるよう、ロールプレイを盛り込んだ勉強会を開催する。

2・3 年目の候補生については、ケアプランの理解として勉強会を開催し、1 名の利用者様の居室担当となり、利用者様のニーズに沿ったケアプランを作成する。
また、介護技術大会に参加することにより、認知症利用者様への理解を深めていく。

2. 介護職員の資質の向上

I. 接遇について

利用者様・ご家族様の信頼を得るために、職員の資質向上が不可欠となる。その為に、言葉使いや態度、コミュニケーション能力向上に取り組んでいく。言葉使いや態度が悪い職員には施設内の接遇研修に参加すると共に、職場全体が注意できる環境づくりを目指す。

II. 職員アンケートについて

半年に 1 回、匿名での職員アンケートを実施することにより、施設の見えない問題点・改善すべき点をあげ、それを基により良い職場環境に努め、利用者様・家族様に安心して頂けるサービスを提供する。

3. 感染症対策について

昨年 2 月と 8 月に感染が流行する事態となった。今年度は感染拡大を防止するために環境整備を行い、月 1 回アルコール・塩素消毒を実施し感染予防に努める。
また、室温管理を行い至適温度を保つよう職員に促す。
多職種との共同により、職員の健康維持を図り感染症を予防していく。

4. 嘱託医との連携強化

今年 1 月より、嘱託医が変更する運びとなった。そのことにより、施設での点滴や、内服指示による対応が可能となり、施設内での早期対応ができることとなる。
その為、嘱託医・看護師・介護士と連携することにより、長期入院の問題や、看取りケアの充実が図られ、利用者様・ご家族様の意向に沿ったケアに取り組むよう努める。

5. 腰痛予防への取り組み

現在、平均介護度 4.2、トイレ介助時、移乗時の二人介助が 100 名中 4 5 名の状況である。
新しい職員も増え、介護技術にばらつきがみられると考えられる。介護技術の向上はもちろんのこと、腰痛予防として腰痛ベルト着用及び、福祉用具の活用を推進し安全な職場環境を整えていく。

6. 介護統計について

平成 30 年度介護状況目標

項目		月平均目標
日中オムツ使用率		15%
入浴統計	特浴	40%
	個牒	35%
	個浴	25%
食事形態	普通食	30%
	刻み食	35%
	極刻み食	2%
	ミキサー食	10%
	経管栄養	0%
褥瘡発生数		月平均 2 件
看取り介護実施		100%

7. 各班目標

【3 階 1 班】

新しい職員が増えたため、家族様面会時には、積極的にコミュニケーションを図り信頼関係を構築する。また、事故件数が月平均 3.2 件であったため、班内の事故を 1 か月 2 件に減少させる。その為には、ユニット会議を月 1 回開催することで情報の共有、決定事項の周知

徹底、ケアの見直しを実施して職員一人一人の意識向上に努め、職員同士で注意しあう環境づくりを目指す。

【3階2班】

昨年度の事故件数が月平均 4.6 件、その内転倒等による骨折で入院が必要となった件数 2 件という現状であった。その為、事故内容を深く検討し、また、ユニット会議を月 1 回開催することで、情報の共有・決定事項の周知徹底を行い未然の事故防止に努め全体の事故件数を月平均 3 件に減少させる。更に、新しい職員が多くなってきたことから基本に立ち返り、一つ一つの作業の意味付けを行いより深く理解して介助を行っていく。

【4階1班】

現在の褥瘡人数は 2 名（8.3%）である。昨年度は、6 名（25%）から 2 名（8.3%）まで褥瘡数を減らすことが出来た。前年度データから原因を分析し、排泄介助、ケア方法の見直し・徹底を行い、班職員全員で褥瘡 1 名を目標とする。職員の人材育成については、EPA をはじめ、新しい職員への育成に取り組む。また、中堅職員の指導力、レベル向上を課題とし、職員間の意識統一化、介護力の安定を図る。

【4階3班】

事故の発生件数については、10 月から 2 月では、1 か月あたり約 4 件と目標を達成できていない。また、同じ利用者の事故が見られているため事故発生率を低減するために、新入職員の教育、統一された介護を職員が身に付けることで、今年度も継続して目標を 1 か月あたり 2 件を目指していききたい。家族様の理解や見守り強化・介護力の向上を目指して行きたい。今年度は、職員間の報告・連絡の徹底、家族様との関わりを強化、誰もが対応できる班づくりをし、家族様とも良好な関係作りを目指したい。

8. 委員会活動への責任

昨年度、褥瘡委員会・リスク委員会では、会議を毎月行うことにより褥瘡の治癒や、事故件数減少への取り組みに力を入れた。今年度は、各委員会の委員長を中心に与えられた委員の問題点を責任持ち改善していく。また、相談員、主任がすべての委員会に入りアドバイスができるよう努めていく。

9. 収入の確保

介護報酬見直しにより基本報酬引き上げになった。そのことにより、月約 425,000 円の収入増加が見込まれる。その他の算定できそうな加算についても、要件を満たせる様式等に変更すると共に、検討を行っていく。また、状態に応じた介護度の変更や、ショートステイ・医務・病院の地域連携室との連携を行い入退院に向けたベッドコントロールや、常に入所ができる方を確保し空床を出さないように努める。また、入所率 98%以上のキープを目指して行きたい。

年間収入予想（平成29年度2月3月は予想）

（千円）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
H29年度実績	34,976	36,474	35,554	36,520	33,020	34,495	211,039
H30年度目標	35,699	36,817	35,720	36,801	36,889	35,641	217,567
年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H29年度実績	36,291	35,124	36,897	36,898	32,787	36,090	425,126
H30年度目標	36,880	35,641	36,890	36,817	33,360	36,818	433,973

特別養護老人ホームサンライフ御立研修計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
予定外部研修	福祉機器展	新人研修	認知症研修	ユニットリーダー研修	看取りケア	感染症予防
予定参加者	トウアン	新入職員	上野	板井	福田	大島
介護講習	シーツ交換について	食事介助について	入浴介助について	排泄介助について	歩行について	福祉用具について
担当者	改発・溝口	改発・溝口	改発・溝口	改発・溝口	改発・溝口	改発・溝口
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
予定外部研修	QC発表大会	事故予防	技能実習指導員講習会	虐待防止	認知症ケア	介護保険改正研修
予定参加者	溝口	河内	改発・溝口	石橋真	宮田	松本
介護講習	盲者・聾者について	移乗介助について	着脱介助について	座位について	事例問題テスト	事例問題テスト
担当者	改発・溝口	改発・溝口	改発・溝口	改発・溝口	改発・溝口	改発・溝口

平成 30 年度サンライフ御立ショートステイ

事業計画書（案）

前年度に引き続き「また利用したいと思えるショートステイ」について各自が考え、どんな方であっても安心して過ごせる場所となれるよう取り組んでいく。人員の入れ替わりがあり、業務に追われがちであるが、全員が同じ方向を向いていけるように指導をし、本年度ささゆり会経営スローガンである「活力ある職場を提供し、生産性を上げる」を実践していきたい

1.また利用したいと思えるショートステイ=どんな方であっても安心して過ごせる場所の提供する

お客様に選ばれる事業所となるにはどうすればよいのか。私達がサービス業であるという自覚が足りない職員が多い。どんな方にも安心して過ごして頂くには何が必要なのか、必要最低限の介助だけでなく、楽しいと思える時間をつくることも求められる。

- I.利用者様に対して馴れ馴れしい口調や、強い口調での声かけはしない。丁寧語を使ってもその内容が相手を抑えつけるようなものであるなら、それは相手や周囲を不快にするということを各自が理解する。他者が聞いて不快に感じる言い方はしないよう職員同士で注意しあう環境をつくる
- II. 荷物の返却忘れをなくするため、まとめて置いている以外の物に関して 2 重チェックを徹底する
- III.家族様とのコミュニケーションを大切にする。面会に来られた時、挨拶だけで済ますのではなく、どの職員であっても利用者様の日頃の様子をきちんと伝えるようにし、信頼関係を構築する。
- IV.ロングショートの方の居室担当業務を強化する。その方にとって必要なサービスが不足していないか担当者は常に観察し、状態変化に応じて対応を発信していく。
また、家族様との連絡係として特養入所に向け地盤作りを行っていく。プラン作成が非常に遅いことに関しては、入所後速やかに家族様に連絡し作成に取り掛かるようにし、入所後三週間以内の完成を目指してリーダーが都度声かけを行っていく。
- V.レクリエーションを強化し、一日を何もせずに過ごすことのないようにする。毎日の業務分担でレクリエーション担当者を決め、一週間に一回は皆でできる大きなレクを行い、月に一回はおやつレク等のイベントを実施する。

VI.認知症対応のレベルアップが求められる。言葉での抑制や、注意をして矯正する等の間違った対応がないように指導をおこなっていく

2.活力ある職場作りで生産性をあげる

I .昨年に引き続きリフレッシュ休暇を含む年間8日以上の有休取得を必須としワークライフバランスを整えることで働きやすい職場を作っていく。また、人材育成について、中途採用者もチューター制度によって専門的知識と実践力が身につくようにしていく。人員の入れ替わりが多く、教える側の負担が大きくなるように上司がフォローしていく。

II.EPA 候補生育成について

昨年度に引き続き、現在の候補生について、1名の個人指導者をつけシート項目に沿った指導を行っていく。誰に聞けばいいのかをはっきりさせることで安心して仕事ができるようにする。医療や認知症・看取り等について必要な専門知識や家族対応の方法、気づきの視点を持てるよう、ロールプレイを盛り込んだ勉強会を実施する。2年目からはケアプランの勉強会を開催しプラン作成できるように取り組んでいく。

3. 事故防止の取り組みを継続していく

I .毎日ヒヤリハット担当者を決め、1日5件の記入を行うことを継続し、2週間毎に振り返りを行い、事故を未然に防ぐ意識づけを行う。

II. 昨年度 QC 活動で事故防止に取り組み、事故は減少傾向であったが、秋頃からまた件数が増えてきている。対策困難な事例もあるが、見守りや仕組みを整えることで防げる事故は必ず防ぐよう意識して取り組む。日中はフロアに必ず職員がいるよう離れる際の声かけを徹底する。起こってしまった事故に関して、原因を分析し、対策を徹底することで繰り返さない事も大切である

4.感染症対策について

昨年の感染症流行を教訓として、感染拡大を防止するための手指消毒、月1回のアルコール・塩素消毒の実施を行う。居室やフロアの温度管理を行い室内環境を整える。デイスサービス等と情報を共有し、感染拡大に努めていく。

5.収入の確保について

収入の確保について、今年度はやや厳しい状況となっている。介護報酬改定により多床室の報酬が適正化され、個室に合わせて下げられることになった。これにより30床のうち約7割が多床室である御立年間約70万円近くの収入減が予想される。

加えて、ロングショート利用の方を現在 8 割近くにしているが、現代の家庭の状況から、皆就労されている所へ 2 泊 3 日の帰宅は不可能である方が殆どで、これにより 1 か月約 18 万程の減算となる。静養室の利用も控えていることもあり、収入確保の為には、小さな空床のすきまをきっちりと埋めること、ロングショートから特養入所で退所される際の、次の方の入所をスムーズに行うことが必須となる。稼働率はすでに平均 100%を超えているため、どこまでそれを徹底できるかが問われる。

サンライフ西庄オープンにあたり、西庄への入所希望者を募り、御立のロングショートから円滑に入所に繋げることも上半期の責務である。現在、御立でロングショートを利用されている方の中からも西庄へ入所されるため、幅広く営業活動を行い、より多くの利用者様を確保する。

昨年より、ホームページにて空床情報を発信するようにしたもの、反響は少ない。

事業者情報や、電話でよく聞かれる Q A 等も載せているのでさらにアピールしていきたい。

平成 30 年度の目標収入

(単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
平成 29 年度実績	10,717	11,510	10,633	10,432	10,655	10,207
平成 30 年度目標	10,480	10,870	10,480	10,870	10,870	10,480

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年度実績	11,152	10,679	10,721	11,081	9,961	10,700	128,448
平成 30 年度目標	10,870	10,480	10,870	10,870	10,180	10,870	128,190

※ 平成 30 年度 2 月、3 月の実績については予想の額です。

介護報酬の改定によって新設される加算に関してはどれも現在ハードルの高いものばかりであり、取得は困難である。

平成 30 年度 特別養護老人ホームサンライフ御立（医務）

事業計画書(案)

特別養護老人ホーム入所者の高齢化及び重度化が進み、厚生労働省は平成 30 年介護保険報酬改正に伴い、特別養護老人ホームの医療の充実を目指すと謳っています。

法人の経営スローガン「活力ある職場を提供し、生産性をあげる」に基づき、医務室として、異常の早期発見・早期対応に備え、以下の目標を設定し取り組んでいきたいと考えています。

1. 看護体制の構築と他職種との連携と協働を強化しベッド稼働 98%を目指す

- I 嘱託医と連携を図り施設で出来る範囲での医療処置を実施し入院数を減らす。
- II 介護職及び他職種（理学療法士・管理栄養士・歯科衛生士）と協働し入居者の生活支援の充実に取り組む

2. 充実した看取りケアを提供する

- I その人らしさを大切に、本人及び家族の意思を尊重した看取りを提供する。
- II 家族の参画を促し、入居者・家族に安心できる環境を提供する。
- III 他職種と情報を共有し、統一したケアを提供する。
- IV 家族・職員にとっても悔いのない満足のいく終焉を迎えられるケアの提供。

3. 健康管理

- I 利用者様の健康診断を年 1 回実施
利用者様に対しては、配置医師の協力のもと、潜在性疾患を検索し、異常の早期発見と適切な治療を促す。
- II 職員の健康診断を年 2 回（深夜業に従事する者を含む）
産業医の協力のもと、生活習慣病・職業病への認識を深め、安全な就労への啓発を行う。

4. 感染予防

- I インフルエンザ予防接種
利用者様に対しては家族の協力を得て予防接種を促す。
職員に対しても予防接種の励行、感染対策マニュアルの周知を促し感染に対する意識を高める。
- II ノロウイルスに対しても「一行為一手洗い」・嗽の励行を徹底し、施設内感染が最小限にとどまるよう環境整備に努める。

平成30年度 特別養護老人ホームサンライフ御立(厨房)

事業計画書(案)

前年度は、新たに3名の管理栄養士を採用したため、管理栄養士業務の引き継ぎ、研修、会議等への参加ができた。また、新しい機器の導入により、調理時間の短縮や、衛生管理の徹底ができた。

今年度は、引き続き今いる人材の定着・育成を図り、献立の充実や美味しい食事の提供に努めていく。また、前年度、褥瘡である利用者様が多く見られたため、栄養状態を把握し、褥瘡の完治に取り組む。また、予防にも努めたい。

1 人材の定着・育成

前年度は、人員が安定しており、引継ぎを重点的に行えた。また、一部職員に負担が偏っていたが、それについても解消されつつある。

今年度は、調理現場の統一がとれる人材の育成に力を入れていきたい。

2 献立の充実

厨房機器の入れ替え工事でスチームコンベクションオーブンを導入したことにより、調理時間の短縮ができたことも献立の幅が広がったことにつながったと考えられる。

職員によって味にバラつきが出ないように調味料の量についても検討していく。職員の調理技術の向上を図る。

3 衛生管理

大量調理施設衛生管理マニュアルの改正に伴い、改正のあった部分についてはまとめた資料を配布する等をし、職員でマニュアルを把握する。マニュアルに沿って、現在の衛生状態の見直しを行う。特に、調理機器等の消毒・殺菌方法や、手袋の使い方については、定期的に確認する機会を設ける。また、施設で発生した食中毒の情報収集、それを共有することで、衛生管理に対する意識の向上を図る。

4 食事形態

今年度は普通食移行を実施していく。前年度、入院者が多く、退院後は食形態が落ちている方が多かったことや義歯の調整等が多かったことより刻み食の嚙食者の割合が増えている。

目標としては、平成30年2月20日時点で普通食は27名であり、1年後40名を目指す。

(人)

	普通食	刻み食	極刻み食	ミキサー食	経管栄養
H30.2	27	33	33	7	0
H31.3	40	28	28	4	0

また、体調不良の際は一時的に形態を下げてでも食べられる物を食べて頂き経口摂取の維持を図り、体調が回復した時には再度食事形態を検討する。さらに、ターミナル期の方には、本人の好まれるもの、摂取しやすいものを提供し、最期まで少しでも口から摂取していただくよう努める。

5 褥瘡予防

褥瘡である利用者様が多く見られたため、低栄養の高リスク者を把握し、重点的に栄養状態のモニタリングを行い、褥瘡の完治に取り組む。また、予防にも努めたい。

	DTI 疑い	ステージ I	ステージ II	ステージ III	ステージ IV	合計
3階1班				1		1
3階2班			2	2		4
4階1班			2			2
4階3班			3			3
ショート			2			2

平成30年2月15日

平成30年度 デイサービスセンターサンライフ御立

事業計画書

法改正により、介護報酬の時間の細分化がおこなわれる。デイサービスの基本報酬が下がる中で新たなサービスへの取り組みを実施し、それを地域の方や利用者様家族様により広く知って頂けるよう努め、現在利用されている方の満足度を高めると共に新たな顧客開拓に向けて働きかける。

1. 新サービス・介護保険外サービスの導入

- ・家族様の介護負担軽減を考えながら入居施設との併設であるというメリットを活かし朝食サービスの提供をおこなう。朝食というきちんとした形では難しいかもしれないが、早い時間に入られる方にあらかじめ希望を伺い軽食を安価で提供していく。
見守りや介助人員の確保や希望されない方もいらっしゃる場合はスペースの分け方をどのようにするのか等の課題を解消していく。
- ・編み物や習字などの外部講師に依頼し、機能訓練を兼ねて月1～2回の頻度で教室を開催する。希望者には費用を徴収して参加していただく。姫路市との調整を重ねながら実施していきたい。クラブ活動として定期的の実施していく。
- ・将棋等のレクリエーションをされる方が増えてきている。ボランティアさん等にきていただき、男性利用者の将棋や囲碁をしたいというニーズに応えていく。ケアハウス入居者様で将棋や囲碁を好まれる方がいらっしゃったらマッチングをはかり対戦していただく。
- ・他の人気のある通所介護事業所への見学をおこない、行事企画やイベント等の参考にさせてもらう。

2. 加算取得

- ・現在勤続年数が3年以上の職員が30%以上で取得可能なサービス提供体制強化加算Ⅱ（6単位/日）を算定している。4月より時間短縮を外れる職員がいる事と介護福祉士資格を合格見込みの職員が合格となると介護福祉士の割合が50%以上の要件を満たすのでサービス提供体制強化加算Ⅰ・Ⅱ（18単位/日）の算定が可能となる。

3. 職員のモチベーション向上

- ・非常勤職員の伸ばしてほしい能力や不足している能力を見極め、それに因んだ外部研修への参加をすすめる。
- ・1の項目でも挙げた他の事業所見学を非常勤職員にも参加してもらい、業務面や考え方に関しての刺激を受け感想を提出してもらう。
- ・前年度に非常勤面談した意見で良い意見・前向きな意見を採用、検討して取り組んでいく。

4. 新規顧客の獲得

- ・新サービス・介護保険外サービスが企画実施出来た場合の発信を写真やちらし、可能であれば動画などに撮影してケアマネジャーにわかりやすく伝える。
- ・現状のサービスで当たり前となっている事でも他事業所と比較をおこない、効果的なことやアピールポイントになる箇所を再度発信していく。

平成30年度予想利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成29年度実績	24.8	23.6	22.9	22.2	21.6	22.9	138
月合計(人)	620	639	596	578	583	583	3599
平成30年度目標	22.8	23.6	24.2	23.4	23.3	24.0	141.3
月合計(人)	570	637	629	608	629	600	3673

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
平成29年度実績	23.6	22.7	22.6	19.9	21.3	21.6	22.4/月平均
月合計(人)	612	577	557	497	511	583	6936
平成30年度目標	24.2	24.0	23.6	21.4	22.8	23.6	23.4/月平均
月合計(人)	653	624	614	535	547	614	7261

(29年度2月3月 予想)

平成30年度目標収入

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成29年度実績	4,919	5,078	4,665	4,532	4,588	4,721	28,503
平成30年度目標	4,444	4,975	4,900	4,749	4,880	4,645	28,593
差異	-475	-103	235	217	292	76	90

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
平成29年度実績	4,781	4,445	4,470	3,919	4,018	4,588	54,724
平成30年度目標	5,078	5,474	4,839	4,764	4,241	4,773	56,472
差異	297	1029	369	845	223	185	1,748

(29年度2月3月 予想)

平成 30 年度 サンライフ御立ケアハウス

事業計画書（案）

入居者が、精神面及び身体面において心穏やかに安心して生活できる様サポートをしていく。個々の入居者により、要望も様々であるので細かな配慮が出来る様に他部署との連携を図る。ADL の低下抑制を重点項目にあげ、それに伴う各種行事への参加支援、相談サービスの充実に努める。

日々の生活の一部となる様、体操や学習療法等を組み入れ身体的機能の現状維持を図る。日頃の生活状態の変化に気付き、身元保証人との連携を密にして対応する。

1. 健康面及び精神面の相談サービスの充実

大半の入居者は、かかりつけ医に定期受診をして健康管理がなされている。

月 2 回の健康チェックを実施し、体調の変化に留意する。病気の早期発見や早期回復に努める。参加率を上げ、日頃から精神面、身体面の変化や悩みをくみ取り、安定した生活ができる様支援をする。

ケアハウスにおいて生活に不安を覚える状態になる前に身元保証人との話し合いを持ち、介護認定申請を行う等のサポートをする。ケアマネジャーとの連携を密にし、入居者の状態に合わせヘルパー・デイサービス・グループホーム・ショートステイ等との相談サービスの充実を図る。

H30.3.7 現在

①介護認定状況

単位：人

	自立	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2	合計
5 階	5	4	4	3	1	17
6 階	5	5	4	2	1	17
合計	10	9	8	5	2	34

②サービス利用状況

単位：人

	ヘルパー	訪問看護	デイサービス	生きがいいデイ	福祉用具貸与
5 階	9	2	8	0	5
6 階	9	0	7	0	8
合計	18	2	15	0	13

③入居者年齢・性別状況

単位：人

	～74 才	～79 才	～84 才	～89 才	～94 才	合計	平均年齢
男性	0	4	2	1	1	8	81.3 才
女性	2	2	5	8	9	26	85.2 才
合計	2	6	7	9	10	34	83.3 才

2. 各種行事・クラブ活動への参加支援

現行の行事やクラブ活動を充実させ継続するように努め、新たな教室の開拓を図る。入居者のふれあいの場とし、居室での引きこもりを防ぎメリハリのある生活を送れる様サポートする。

入居者が各種行事に参加することが楽しみとなり、また積極的に参加していただける様なプログラムを検討し、充実した内容にする。

3. 相談サービスの充実

様々な悩みや不安を和らげ、安心感をもって生活できるように相談業務を充実させる。入居者の年齢幅が大きくなっている。親子程の年齢差が生じ、それ故の問題も出来ている。

ケアハウス職員会議を開き、意識統一を図り、職員間の対応の差を無くしていく。

ケアマネジャーとの連携を密にし、入居者の状態に合わせヘルパー・デイサービス・グループホーム・ショートステイ等との相談サービスの充実を図る。

4. 空室ゼロの対策

入居に際しての問い合わせ、入居希望の見学者は現入居者平均年齢(83.3才)前後である。よって、居住年数も短くなっている。

如何に退去からその後の入居を短期間でスムーズにやり遂げられるかがポイントであるが、毎回退去者の荷物の搬出、リフォーム等に手間取る。費用面においても、管理費・事務費は月払いであるので月初の入居となる。

又、近い将来の入居希望者(待機者)の確保も重要である。

平成 29 年度実績及び平成 30 年度予算

単位：千円

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 29 年度実績	4,718	4,483	4,659	4,427	4,684	4,332	27,303
平成 30 年度目標	4,720	4,492	4,680	4,440	4,709	4,353	27,394
差額	2	9	21	13	25	21	91

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年度実績	4,587	4,512	4,777	4,522	4,748	4,559	55,008
平成 30 年度目標	4,611	4,515	4,782	4,528	4,752	4,631	55,213
差額	24	3	5	6	4	72	205

平成 30 年度 ユニット型老人ホームサンライフひろみね

事業計画書（案）

平成 30 年度ささゆり会経営スローガンである「活力ある職場を提供し、生産性を上げる！」を元に活力ある職場作りへの参画を行うとともに、派遣社員ではなく直接雇用の職員を充足することで人員不足を解消したい。また、個別機能訓練の質を向上する為、外部の理学療法士や作業療法士等と連携を試みたい。栄養マネジメントを継続することで適切な栄養環境が得られるように支援したい。また、嘱託医が厚生病院から大西クリニックへ変更となる為、医療体制の再構築を行うことで 29 年度と変わらぬ医療やターミナルケアが提供できるように支援したい。

I. 科学的介護の実践について

- (1)施設全体で日中おむつ外しに取り組むことで、日中おむつ率 0%を継続したい。また、一時的におむつを着用することになったとしてもトイレでの排泄が再度適うように努力する。
- (2)統計を出し視覚化することによって介護の質の向上を目指す。
- (3)出ている症状の原因を検証し対策を施すことでより効果的なケアを実践する。

II. 職員教育・組織体制作りにについて

- (1)個々の役割を明確化することで組織としての運営を効率よく行う。
- (2)情報共有の効率化として介護支援ソフトの活用を行う。
- (3)人員募集を行うことで人員確保に努め、過不足のない人員体制を構築し職員・利用者に負担が生じないように努めたい。
- (4)新入職員へのマンツーマン指導を行うことで、基本的な介護技術や理念の習得を図ると共に、不安や疑問をすぐに相談できるよう配慮し、安心して意欲的に働ける職場環境作りを目指す。
- (5)職員個人の特性や意欲的な思いが活かせるよう、また、各ユニットのチーム力を強化する為、ユニットリーダーを中心に月 1 回のユニット会議に加え緊急時のユニット会議を設ける。また、他ユニットとの情報の共有や協力体制を継続するため、リーダー会議を継続していく。
- (6)ユニットリーダー研修に参加することで現在のユニットリーダーの知識・技術を向上し当施設のサービス向上に努めたい。

- (7)受験資格要件が緩和した介護福祉士については、実務者研修費用の半額負担を行ったり介護支援専門員受験資格取得者に対しては、サンライフ御立での勉強会への参加を勧め、資格取得をサポートする。
- (8)平均要介護度が 4.45 と重度者が多い為、重介護に対する介護職員の腰痛を予防するためスライディングボードの定着や青山流等の介護者の負担を軽減できる介助方法の研修や体操、腰痛ベルトの貸与、介護ロボットの導入を検討する。
- (9)ヒヤリ・ハットの収集方法を検討し提出する習慣をつけて原因を追究し対策をとることで事故予防や再発予防に努める。
- (10)虐待は介護者と認知症高齢者の間に上下関係ができてしまうことで生じる可能性がある。ニックネームの使用禁止や言葉遣いについての指導、認知症についての研修を行うことで認知症高齢者の理解を図り、職員・利用者間において上下関係の構築を予防し虐待の発生を防ぎたい。
- (11)新しい嘱託医との連携体制を構築し終末期の医療やターミナルケアを安心して受けられるように努めたい。 また、看取りについての研修に参加しスキル向上を目指す。デスカンファレンスを行い、職員の負担軽減やターミナルケアの質の向上に努めたい。
- (12)記録の再確認を行い、記入漏れや間違いがないかを確認する。
- (13)人員を確保して外部研修への参加回数を増加する。
- (14)防犯訓練を行うことで利用者や職員の安全が守られる体制を継続したい。

Ⅲ. 地域貢献について

- (1)2 か月に 1 回の運営推進会議を開くことで施設の情報提供し地域の方や民生委員、家族、利用者、地域包括支援センターとの関係を築く。
- (2)地域の方と交流をもつため地域行事へ参加する。
- (3)広報誌を自治会の回覧に入れてもらうことで情報の公開を図る。
- (4)地域の防災訓練に参加することで災害時の連携体制を整える。
- (5)姫路市医師会看護専門学校の実習を受け入れることで地域医療の発展に貢献する。

IV. 介護統計について

平成 30 年度介護状況目標

項目		平成 30 年 2 月末状況	平成 31 年 3 月末目標
日中オムツ使用率		0 名 (0%)	0 名
入浴統計	特浴	0 名 (0%)	0 名 (0%)
	リフト付個浴	29 名 (100%)	29 名 (100%)
	個浴	0 名	0 名 (0%)
食事形態	普通食	18 名 (67%)	22 名 (76%)
	刻み食	0 名	0 名
	極刻み食	10 名 (37%)	7 名 (24%)
	ミキサー食	1 名 (0%)	0 名
	経管栄養	0%	0 名
褥瘡者		1 名 (3%)	0 名
身体拘束		0 名	0 名
看取り介護実施 ※		3 名 (75%)	(100%)

※看取り介護実施率=看取り介護実施者／全退所者（急死を除く）

V. 事業運営について

30 年度の法改正から口腔衛生管理加算の減算があるが、サービス費が増額となった為年間で 400 万円の増額が予想される。しかし、開設から 10 年を迎え建物や物品の劣化が進んでいる。その為、昼部屋のフローリング化、電化製品の買い替え、その他修繕費がかかる可能性がある為、消耗品の節約や派遣社員の減少、新たな加算の取得を目指すことで収益を確保したい。嘱託医の変更に伴い今まで実施してきた医療体制に近い状況になるまで再構築することで長期入院や急な退所による入院・空きベッド数を増やすことなく稼働率 99%以上を目指したい。

VI. 年間収入予想（平成 29 年度 2 月～3 月は予想）

（単位 千円）

年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
H29 実績	12,783	12,881	12,526	12,793	12,843	12,335	76,161
H30 目標	12,674	13,066	12,674	13,066	13,067	12,703	77,250
年度	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
H29 実績	13,055	12,471	12,842	13,062	11,667	12,803	150,842
H30 目標	13,066	12,674	13,066	13,067	11,937	13,066	154,130

平成 30 年度 デイサービスサンライフ田寺

事業計画（案）

「活力ある職場を提供し、生産性をあげる」をスローガンとして、「歩行時にふらつきがあったが」、歩行練習をして一人で歩けるようになった」など、利用者様がやりがいと達成感を得られる支援が出来るように、職員一人ひとりが知識の向上と介護の質をあげることを目標に、自身の身体面や精神面をしっかりと管理することができるようにする。

生産性を上げるためには、無駄な時間をなくすることが最も効果的であり、職員が少ない中でもどのような動きをすれば良いのかを非常勤職員もしっかりと行動計画を立てる必要がある。

1. 利用者数の確保

前年度は平均利用者数 25.5 人と伸び悩んだ。理由としては、一人当たりの利用回数の減少が大きな原因となっている。その原因として、ショートステイなどの入所系サービスを利用される利用者が増加している事があげられる。また、要介護 3 以上の方は特養などの入所のため、介護度も平均 1.7 と軽度な利用者様が増えている。

デイサービスサンライフ田寺の強みである、日曜日の営業と、気分転換を図りながら機能訓練を行える外出の魅力に加え、利用者様から意欲が出てくる個別レクリエーションなどを実施していることを、ケアマネージャーと地域の方々にアピールを行う。また、同じようなサービスを行っている他事業所に足を運んでノウハウを学び、可能な物は取り入れていきたいと考えている。

広告面として SNS（Facebook・Instagram）やホームページ・折り込みチラシを活用し、情報を公開することで一般の方に認識してもらう事が重要であると考えます。

2. 新しいサービスの提供（自費利用）

・朝食サービスの実施

朝、8 時 30 分までに来所された利用者様（希望者）を対象に朝食を提供する。

・園芸療法の実施

施設の南側のベランダにプランターを用意し、季節の花を植えていただく。土に触れたり花を育てる事の喜び等、心身の活性化に繋がると考えられる。

・リラクゼーション療法の実施

ネイルやアロマオイルでマッサージをすることにより、若々しい心をいつまでも持つことで生きがいを感じることができる。それと同時に、手を触れ合うことで安心感が得られ、心身のリラックス効果も期待できる。

- ・音楽療法と体操の実施

充実した集団レクを行うことができおらず、もう少しバリエーションを増やしていきたい。とくに流す音楽も少し新しいものに変更する必要がある、外出レク以外の目玉を作りたいと考えている。

3. 自立支援に向けてのサービスの提供

靴の履き替えや食事前のテーブル拭き、食器を洗うなどの日常生活動作を利用者様に実施してもらうように努めている。結果、一人一人に責任感が芽生え、やりがいを持つことによって在宅生活を元気に長く行うことができると考えられる。また、日常生活動作を行うことによる達成感を感じてもらいやすくするためにスタンプを押す形式にして、達成すれば表彰状を渡すなど意欲の向上になるようなシステムを検討していく。

4. サービスの向上に向けた職員の教育と目標の視覚化

職員全体で同じ目標に向かうことができる環境を作る事が必要であり、送迎表に平均利用人数30名や入浴職員の募集を行うなど記入することで、職員全員が同じ方向に向く事ができるようにした。

来年度より、サービス提供強化加算Ⅱを算定する事ができ職員の在籍が安定しており、一人ひとりが職員誰にでも相談ができる環境が形成できている。しかし、前年度目標としていた施設内研修を行うことがあまりできなかった。反省点として今年度はスケジュール管理をしっかりと行い、施設内研修を実施し職員一人ひとりのスキルアップとマナーアップを目指し、サービスの質の向上に繋げていきたい。加えて、HCC（播磨介護技術大会）やオールジャパンケアコンテストなどにも積極的に参加できるようにしていきたい。

5. 介護報酬の改定による影響

まず、現状と同じサービス提供を行うと介護報酬が減額になり約180万円の減額が見込まれる。提供時間については7～8時間を中心に行うほうが、現状は得策だと考えられる。加算としてはサービス提供体制加算Ⅱの取得が可能となった。また可能であれば、生活機能向上連携加算を取得できるような体制を整えていきたい。

収入としては、一日の利用人数を前年度より平均3名以上増やすことや要介護3以上の利用者様と家族様が利用しやすいサービス内容を検討していき、収入増に繋がってきたい。また、介護保険内サービスだけではなく、保険外サービスによる収入面にも力を入れて行く。支出面では、前年度は軽自動車2台の新車購入による出費が大きく、本年度もコピー機の購入を予定しており、備品の買い替えによる大きな支出が考えられるため、派遣には頼らず効率かつ有効的に仕事ができる環境にしていく必要がある。

平成 30 年度 予想利用人数 (人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
平成 29 年度実績	26.2	27.4	26.8	24.0	23.5	25.3
月合計	682	714	697	650	613	659
平成 30 年度目標	27.4	27.8	28	28.5	28.5	28.7
月合計	712	723	728	770	741	746

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年度実績	25.9	25.7	25.6	25.0	25.5	26.0	25.5／平均
月合計	700	643	693	602	586	702	7941
平成 30 年度目標	29	29.3	29.3	29.3	29	29	28.5／平均
月合計	754	762	791	733	667	783	8310

※2、3 月実績は予想です。

平成 30 年度 目標収入 (単位: 千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 29 年度実績	5,742	5,815	5,602	5,199	4,777	5,155	32,290
平成 30 年度目標	6,253	6,140	5,917	5,999	5,736	5,714	35,759
差異	511	325	315	800	959	559	3,469

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年度実績	5,702	5,281	5,346	5,163	4,554	5,148	63,484
平成 30 年度目標	5,879	5,647	5,809	5,411	4,879	5,742	69,126
差異	177	366	463	248	325	594	5,642

※2、3 月実績は予想です。

平成 30 年度 ヘルパーステーションサンライフ御立

事業計画書（案）

今年度は、3 年に 1 度の介護報酬の改定が行われ、訪問介護分野では、自立支援・重度化防止に向けたサービス評価に重点を置く事により、身体介護・生活援助それぞれにおいて多少の介護報酬増減が見られ、報酬にメリハリがつく。

身体介護が絡むと増収・生活援助単体では減収となる。

経営スローガンである「活力ある職場を提供し、生産性を上げる」を念頭に、関係機関・利用者様・家族様との連携強化を図り、「利用し続けたい」と皆様に思ってもらえる、信頼される事業所運営を日々心がける。

[今年度目標]

- ・ 特定事業所加算（Ⅱ）算定
介護技術の向上及びサービスの質の向上
- ・ 収入確保への取り組み
- ・ 自費介護サービスの安定継続

1. 特定事業所加算（Ⅱ）取得に向けた取り組み

質の高いサービスを行う事業所に加算される特定事業所加算を取得する。

加算要件は、ほぼ適応出来ており、確実な取得を目指す。

I 介護技術の向上及びサービスの質の向上

・ 今後予想される中重度の要介護者の支援促進・ニーズの高い身体介護の増加に対応し、知識・技術を高める。引き続き、月 1 回の内部研修、グループ分けをしておける苦手分野克服に向けてのグループ研修の更なる充実化を図る。

不参加の場合は、1 週間以内のレポート提出を義務付け、研修の重要性を認識してもらう。

・ 実技内容の確認として、サービス中の利用者宅への訪問を継続し、登録ヘルパーの達成・把握レベルを確認することを怠らないよう努める。

1 人 1 人がプロとしての意識の元、基本を確認しながらサービスが継続出来るよう、体制作りに努めていきたい。

Ⅱ 資格取得（介護福祉士・介護支援専門員等）への声掛け及び、訪問調整。

Ⅲ 職員個人の責任感の植え付け

・ 責任意識のばらつきを、担当業務を明確化することにより、更に向上出来る行動

へと繋げていきたい。

業務の簡素化を行う事により、担当業務に係る時間の確保に努める。

IV 登録ヘルパー全員の健康診断の実施

かい今年度加算要件分は、H29 年 11 月に実施済

2. 収入確保・利用者確保への取り組み

・昨年度に引き続き、居宅介護支援事業所・地域包括支援センターへの訪問、時間の許す限り足を運び、ヘルパーステーションの魅力を最大限お伝えし、信頼関係の構築に努める。H27 年 5 月から月 1 回発行している「ヘルパーステーション通信」も、マンネリにならぬ様作成し、事業所内部の発信も怠らない。

・利用者様・家族様のニーズにいち早く気づき対応することにより、訪問増に繋がられる様、連携に努め、継続した利用に繋げていきたい。

・常に人員不足を抱えているが、今以上の利用者様の受け入れには、人材確保が必須である。常勤ヘルパーの採用も視野に入れ、対応していく。

3. 自費介護サービスの安定継続

利用者様の「豊かな生活の維持」「在宅生活の質の確保」を目指し、H29 年 11 月より開始となった自費介護サービスを、ご希望される利用者様へは、誤解のない様、しっかり説明にあがる。

現在、人員不足の為、外出・通院に特化したサービスのみの実施だが、定期的に、利用者様・家族様のニーズの聞き取りも進め、現状では満足せず、常に新しい事を発信していく。皆様に寄り添い、地域に根差す事業所を目指し、「サンライフ御立」にお世話になって良かったと言って頂ける様、職員・登録ヘルパー全員で努力していく。

●平成 30 年度の収入目標

(単位： 千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 28 年度実績	2891	2947	3223	2817	2898	3142	17918
平成 29 年度実績	2853	2990	2738	3118	3308	3197	18204
平成 30 年度目標	3100	3150	3100	3150	3300	3200	19000

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 28 年度実績	2969	2881	2980	2881	2933	2977	35539
平成 29 年度実績	3401	3499	3303	2940	3155	3100	37602
自費介護サービス	-	-	4	0	18	0	22
平成 30 年度目標	3300	3350	3300	3100	3100	3100	38250

・自費介護サービスは、29 年度実績に含む。

平成 30 年度 サンライフ御立居宅介護支援事業所

事業計画書（案）

年間目標

平成 29 年 12 月より職員体制が変更になり 4 名（常勤職員 2 名、非常勤職員 2 名）で動いている。前年度は人件費が増えた分収入が追いつかず収入減になってしまった。今年度は新規獲得に努め、収入増を目指す。また、介護報酬改定に伴い地域包括ケアを目指し医療との連携を促進し在宅で利用者様の満足して頂けるサービス利用が提供できるよう目指す。

1. 介護報酬改定への対応

平成 30 年度介護保険制度の改正に伴い居宅支援費の変更により収入増が見込まれる。同一法人・併設施設の特色を生かしながら経営の改善に繋げていきたい。入院時情報連携加算の算定要件の変更や退院・退所加算も変更もあり、該当するものに関しては算定していくようにする。

	現行			改定後	
要介護 1. 2	1042 単位/月	10, 638	→	1053 単位/月	10, 751
要介護 3～5	1353 単位/月	13, 814	→	1368 単位/月	13, 967

2. 担当利用者・収入の確保

4 名体制になり、定期的に利用状況を把握し新規依頼時にもすぐに動ける体制を整える。また、訪問地域の範囲を広げ、現在委託契約しているところ以外の地域包括にも営業活動を行うようにしている。担当の利用者様からのご紹介等も積極的に受け入れるようにし特に地域の方のご相談等も迅速に対応できるよう努める。

3. サービスの質の向上

平成 30 年介護報酬改定の中で、質の高いケアマネジメントの推進で管理者要件の見直しがあり、「居宅介護支援事業所における人材育成の取り組みを促進するため、主任ケアマネジャーであることを管理者の要件とする。その際、3 年間の経過措置期間を設けることとする。」とあり現在主任ケアマネジャーを取得している職員がいない為 3 年間の経過措置の間に要件をみたした職員から順次主任ケアマネジャー取得するよう心がける。また、援助を進めていくにあたり困難なケースや問題点がでてきた時等、事業所内で定期的（週 1 回程度）に話し合いを行う場をつくり、情報共有を行うことで精神面でのケアと援助がスムーズに行えるよう努める。研修会等にも積極的に参加するよう心がけ最新情報等は事業所内で共有できるよう情報交換共有を行う。

4. 特定事業所集中減算の回避

平成 30 年の介護報酬改正において算定要件の変更がありすべてのサービスが特定事業所集中減算の対象だったが、訪問介護、通所介護、地域密着型通所介護、福祉用具貸与のみの対象となった。引き続き減算にならないよう注意し各事業所からの情報等を収集しておき、紹介できるようにしておく。

5. 介護予防支援

平成 29 年度は、新しく地域包括支援センターからの依頼が増え、要介護者の新規依頼にも繋がったと思われる。平成 30 年度も引き続き、多くの地域包括支援センターとの連携を行い新規獲得に努める。

6. 年間収入の予測

① 総収入予想

(単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
平成 29 年度実績	1,685	1,008	1,029	935	1,020	1,063	
平成 30 年度目標	1,256	1,286	1,329	1,333	1,353	1,360	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
平成 29 年度実績	1,107	1,040	1,162	1,202	1,143	1,200	13,673
平成 29 年度目標	1,390	1,416	1,417	1,442	1,465	1,465	16,512

② 介護予防支援費委託受入予想

(単位：千円)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
81	81	81	85	85	88	501
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
88	91	91	95	95	95	1056

③ 訪問調査委託受入予想

(単位：千円)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
43	43	53	53	53	57	302
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
57	57	58	59	59	59	651

平成30年度 デイサービスサンライフ安室

事業計画書（案）

介護報酬の改定が行われ、基本報酬のサービス提供時間区分の見直しが行われ、減収が予想されるが、サービス内容を見直し、利用者様に喜んで頂けるサービスになるよう職員一丸となって取り組んでいく。そして、職員の業務の簡素化を行い、利用者様へのサービスに集中できる体制を整えていき、利用者数の増加を図る。

1. サービス内容の見直し

利用者様のアンケートの結果を踏まえて、ご自分ではなかなか外にでる機会が少ないとのことで、外出が人気だった。現在は月に1回の外出となっているため、平成30年度は月に2回、外出を予定し、近場のものと、遠出のものをそれぞれ企画し、要介護の高い利用者様でも参加できるようにする。

また、ゲームを企画した際は利用者様の意向に関係なく、全員で行うということが多かった。職員との面談でもそういった雰囲気になっていることに疑問の声があり、できれば、利用者様のしたいことをして頂きたいという声が多かった。ただ、人員の関係上、色んなレクをするとそれだけ人員が必要となり、業務が回らなくなるのではないかと不安も聞かれた為、手芸や書道、カラオケなどのグループを複数作り、気になるものに参加して頂くグループレク期間を敢えて作り、利用者様に楽しんでいただくとともに、職員もその体制に慣れていくようにする。

2. 業務の簡素化

連絡帳については、介護職員が手書きで行っていたが、アプリを活用し、パソコンで入力しそれをプリントアウトして、連絡帳代わりにし、少しでも効率よく業務を行っていきたい。また、家族様からも利用者様の情報が簡単に見れるようにし、家族様との関係もオープンで良好なものになるようにしたい。

3. 介護報酬の改定について

平成30年度の介護報酬改定では、「自立支援・重度化防止」を本軸に自立支援に向けた新たな加算創設や基本報酬のサービス提供時間区分の見直しが行われる。新設の加算については要件から当事業所には該当しない為、現行の加算（入浴介助加算、個別機能訓練加算Ⅰ、サービス提供体制加算Ⅰ(イ)）を算定していく予定である。

ただ、心身機能の維持に係るアウトカム評価のADL維持等加算(Ⅰ)又は(Ⅱ)については、詳しい要件が提示されてから、現在取得している個別機能訓練加算に加え、算定可能かどうか検討していきたい。

提供時間区分の見直しについては、平成29年度の基本報酬は7～9時間の時間区分で主に算定していたが、平成30年度は基本報酬のサービス提供時間区分が2時間ごとから1時間ごととなり、現在の利用状況や職員体制からは単位数の低い7～8時間での算定となる。これに伴

い減収が予想されるが、事業所のサービス提供時間を現在の 9 時から 16 時半のところを 8 時半から 16 時半にして、早い時間からの利用者については 8－9 時間で算定できるようにしたい。また、理学療法士が勤務しているということを強みに、入院医療機関を退院した方や通所リハビリを終了した方の受け皿となり、要介護度の高い方でも受け入れできるようにし、利用増を図っていきたい。

平成 30 年度予想利用人数

(単位：人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 29 年度実績	26.2	25.7	24.5	26.3	25.9	24.7	25.6／平均
月合計	655	694	638	685	700	643	669.1
平成 30 年度目標	27.5	28	28.2	28.5	28.5	29	28.3／平均
月合計	687.5	756	733.2	741	769.5	725	735.4

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年度実績	23.7	24.1	25.8	23.8	25.7	26.0	25.2／平均
月合計	617	627	672	596	617	702	653.8
平成 30 年度目標	29.2	29.5	29	28.5	29	29.2	28.7／平均
月合計	788.4	767	754	712.5	696	759.2	740.8

平成 29 年度 2・3 月は予想です。

平成 30 年度の目標収入

(単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 29 年度実績	5,695	5,975	5,470	6,036	5,955	5,540	34,671
平成 30 年度目標	5,689	6,281	6,074	6,145	6,403	5,999	36,591
差異	▲6	306	604	109	448	459	1,920

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年度実績	5,312	5,293	5,685	5,069	5,245	5,967	67,242
平成 30 年度目標	6,574	6,380	6,262	5,915	5,766	6,339	73,827
差異	1,262	1,087	577	846	521	372	6,585

平成 29 年度 2・3 月は予想です。

平成 30 年度姫路市安室地域包括支援センター

事業計画書（案）

平成 30 年 4 月に介護保険報酬の改定があるが、予防通所介護・予防訪問介護が平成 29 年度に総合事業へ移行したことにより報酬改定からはずれていることもあり、変更となる部分は少ない。医療・介護同時改定により、2025 年問題に向けての内容が盛り込まれており、国が目標とする「我が事・丸ごと」地域共生社会の実現に向けて、ますます地域包括支援センターの機能強化が求められるようになる。平成 30 年から新たに 5 年間、姫路市から地域包括支援センター業務を受託することとなり、今まで 10 年間の活動から得た地域とのつながりを大事にし、運営していきたい。

姫路市においても、各地区で生活支援体制検討会議の開催をすすめており、平成 29 年度においては、安室・安室東各連合自治会長に内容説明を行うところまで進んだ。今後も、姫路市地域包括支援課・社会福祉協議会地域福祉課・城乾東光準基幹地域包括支援センターと連携し、少しでも前進できるように自治会長を始めとし、地域に働きかけていく。

事業所内の連携については、今年度も引き続き毎日朝礼でミーティングを実施し、伝達事項や研修報告、地域役員からの情報、新たな相談者・継続相談者等の報告を行うことで、事業所内での情報共有を確実に行っていく。また、昨年度から始めた月 1 回の職員会議を継続して行い、毎月 1 人ずつ担当を決め、主催してもらうことで、各職員のスキルアップにつなげていく。また、研修については、案内のあった研修を事業所内で回覧し、受講したい研修があれば受けることができるように、また、必要と思われる研修については受講するよう勧めていき、事業所全体でのスキルアップにつなげる。

認知症カフェについては、安室・安室東校区では 1 カ所のみでの開催となっているが、安室東民生委員代表より、認知症カフェの立上げの相談があり、平成 30 年度下半期には立ち上げることができるよう活動していきたい。

認知症サポーター養成講座については、他地域では小学校へのアプローチを始めており、安室・安室東校区では、まだ小学校へのアプローチをしていないので、まずは小学校への挨拶を行い、小学校で認知症サポーター養成講座が開催できるよう土台作りをしていきたい。

いきいき百歳体操については、安室・安室東校区では、開催できていないのが残り 1 自治会のみとなっており、平成 29 年度に新規の立上げをすることができなかったが、その自治会の老人会長が気にしているとの情報もあり、引き続き立上げについて啓発していく。

介護予防については、昨年度に引き続き、いきいき百歳体操の場を啓発の機会とし、より多くの地域住民に啓発できるようにしていく。

昨年度は新たに安室東校区の社協支部主催のふれあい喫茶で啓発活動等行えるよう PR を行ったが、7 自治会中 1 自治会からのみの依頼だったので、今年度はさらに連携できるようにしていきたい。

今年度も、センター便りを 3 ヶ月に 1 回、地域役員向け活動報告書を 2 ヶ月に 1 回発行し、

地域包括支援センターの啓発、地域の実情把握を行うとともに、地域との連携強化に取り組んでいきたい。

年間収入について（総収入）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小 計
29 年度実績	2,652	2,609	2,613	2,654	2,603	2,609	15,740
30 年度目標	2,626	2,615	2,626	2,631	2,624	2,613	15,735
差異	-26	6	13	-23	21	4	-5
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
29 年度実績	2,623	2,606	2,634	2,620	2,621	2,622	31,466
30 年度目標	2,628	2,619	2,626	2,633	2,634	2,641	31,516
差異	5	13	-8	13	13	19	50

プラン作成件数（自前プラン）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小 計
前年度実績	186	183	185	189	183	182	1,108
今年度目標	186	185	186	187	185	183	1,112
差異	0	2	1	-2	2	1	4
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
前年度実績	185	181	187	186	184	185	2,216
今年度目標	186	182	185	186	187	188	2,226
差異	1	1	-2	0	3	3	10

- ・プラン作成件数は、毎月新規利用と介護移行があり、昨年度も横ばい状態であった。委託プラン数が増加傾向にあり、職員数からは今以上に増えるとプランナーを増員しないといけない状況にあるため、昨年度とあまり変わらない予測としている。
- ・収入目標では、姫路市からの委託料については、今年度の姫路市からの委託料が確定していないため、昨年と同様の予想で目標を立てている。

平成 30 年度 特別養護老人ホームサンライフ土山

事業計画書（案）

今年度、サンライフ土山では、利用者様の安全・安心・快適に生活が送れるように支援していく。具体的な内容として、事故の減少及びリスクの防止を図り職員の介護技術・知識の向上を図る。また、ユニット毎の目標を数値化し、ただ漠然と介護をするのではなく職員一人一人が責任や目標を持ち行動していく。本人様・家族様のケアに対しての意向・要望について、多職種が連携しながら把握し、勘違い等がないようにしていきたい。入院時や看取り介護時等の面談は、希望をしっかりと医師等に伝えていく。

地域との交流に関しては、生き生き百歳体操・認知症サロンの場所提供や、ボランティアの受け入れ・兵庫県老人福祉事業協会からの委託事業年 3 回・実習生の受け入れを継続し、地域交流を図る。

収入面では、今年度 4 月に介護報酬の改正があり、年間約 3,937,970 円の増加が見込め、加えて排せつ支援加算、褥瘡マネジメント加算、低栄養リスク改善加算を算定できるように努めたい。昨年度の空床が 0.94 人/日（H29.4～H30.1 まで）より 0.8 人/日となるようベッド管理を行い、今年度もショートステイと連携を図り、入院をきるだけ少なくすることや、退所後は次の入所の手続きがスムーズに行えるように体制を整え、収入の維持に努めていく。

1. 利用者様の安全・安心・快適な生活環境の整備

昨年度、介助中のミスや伝達不足・ヒヤリハットを活かした対応の不足が見られた。今年度は、事故の減少や対策の強化を図り、安全・安心した生活を送れるよう支援していきたい。各居室のトイレや棚・ベッド周辺の介助する場所に、排泄支援・ベッドの高さや福祉用具の置き場所等介助方法を周知徹底し、利用者様一人一人に合ったケアの統一を行い、職員側の介助ミス・伝達不足によるミスをなくしていく。また、日頃から利用者様との信頼関係を構築し、表情やしぐさから言葉に出せない思いを汲み取ったり、何気ない会話の中からも、思いの確認を行っていく。加えて、普段から家族様への状態報告が出来ていなかった事案があったため、ケアプランの見直し時のみに報告するのではなく、面会時にも近況報告し信頼関係の構築に努め、言い難いこともきちんと説明をしていく。

2. 他部署との連携強化及び各ユニット目標の実施

今回の加算算定においても、介護職員・看護職員・機能訓練指導員・管理栄養士との連携が重要になる。その上で、多職種との連携強化に努め、朝・夕の申し送り時間を有効活用し、検討、話し合いをおこなっていく。

利用者様・家族様から、ケアに対しての意向・要望を確認し、不安に思われる事や看取り時等は必ず看護師・相談員が面談していき、意向に沿った支援ができるように努めていく。

I.来年度の各ユニット目標として、2階西「すぐに記入・記録する。」2階東「職員間の情報共有を連絡帳・メモ等をと通じて円滑に行う。」3階西「認知症への知識・理解を深め、安心して穏やかに過ごして頂けるように努めたい。」4階西「連絡ノート、記録の徹底・強化」4階東「筋力低下防止の為、リハビリに力を入れる。」5階西「リハビリをして利用者様の機能維持につとめる。」5階東「筋力低下を予防すべく、リハビリに力を入れる。」を挙げている。情報共有を行うことで、安全・安心・快適に生活が送れるように支援していく。また気持ちの良い空間で心地よい暮らしを提供し、事故や褥瘡等の予防、機能低下を図る。

II.看取り時等は必ず面談していき、本人様や家族様から主治医に伝えにくいことは、職員が間に入り、意向や要望をしっかりと伝えていき、必要のない入院を減らしていく。厚生病院の主治医とは連携がとれ、利用者様・家族様の意向を優先してくれるが、かかりつけ医以外に入院された場合は、望まない医療行為をされていたり、家族以外には病状を教えてくれない病院があり退院調整が難しいため、家族様や施設の意向をしっかりと伝えていく。

3. 職員一人一人の介護技術・知識の向上

昨年度、職員による介護技術・知識の不足・慣れからの危機意識の低下や不注意が見られたため、今年度は、介護技術の基本を再度徹底するとともに、介護技術研修を中心に内部研修を実施していく。一部職員には、介護技術のチェック体制がない為、正しいかどうかわからず不安を持って働いている職員もいる。その上で、職員全体で介護技術の習得を図る。内容としては、今まで講義中心の研修が中心であったが、今年度は、実践中心の研修制度に変更していく。講義中心の研修になると、日時調整が難しく職員の参加人数も少ない事が多かったため、職員の負担が大きかった。負担軽減や参加人数を増やすため、朝・夕の申し送り時にミニ研修を増やしていきたい。また、介護のみの研修を行うのではなく看護師・管理栄養士・機能訓練指導員等の、多職種と連携が重要になる為、他分野の研修も行っていきたい。

4. 地域との交流

生き生き百歳体操・認知症サロンの場所提供や、ボランティアの受け入れ・兵庫県老人福祉事業協会からの委託事業年3回・実習生・トライやるウィークの受け入れを継続していく。その中で、いつも同じメンバーが担当していることもある為、時には他職員にも責任を振り、職員全体で活動していく。今年度も、サンライフ土山の認知数が増えるよう、地域の活動や行事に参加し交流を図り、地域の住民に愛される施設作りを行う。

5. 加算算定について

報酬単価が増えることにより、年間約3,937,970円の増加が見込まれる。また、新たな加算、排せつ支援加算・褥瘡マネジメント加算・低栄養リスク改善加算を算定していく。看護師の人数を整備することにより、配置医師緊急時対応加算、看取り介護加算(Ⅱ)が算定可能になる為、状況に応じて加算の算定を行う。

特養研修計画

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
介護・医療研修	電話対応について	服薬介助について	バイタルサインズについて	ポジショニング	急変時の対応	認知症について
担当者	高見	山岡	内藤	長井	梅野	井神
介護講習	・寝返り（姿勢の変わる） ・起き上がり	・立ち上がり ・座る	歩く	車椅子への移乗	車椅子での移動	食事時の姿勢と介助
担当者（リーダー）	4 西	5 西	機能訓練指導員	ショート	2 東	機能訓練指導員
ユニットリーダー対象	介護報酬について	介護報酬について	食中毒について	脱水・高血圧	アルツハイマー型認知症	レビー小体型認知症
担当者	宮崎	山岡	毛利	医務	中野	宮崎
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
介護・医療研修	褥瘡予防について	感染症について	体位交換、ギヤッチアップについて	ターミナルケアについて	虐待防止について	基礎的疾患について対応
担当者	磯部	梅野・内藤・中野	八木・中島	磯部	山岡	古幸
介護講習	更衣介助	トイレ介助	オムツ交換	陰部洗浄	清拭	入浴介助
担当者（リーダー）	2 西	5 西	4 東	3 西	5 東	4 西
ユニットリーダー対象	脳血管性認知症	糖尿病	機能訓練について	誤嚥性肺炎	パーキンソン病	低栄養
担当者	山岡	医務	永井	医務	中野	山岡

平成 29 年度介護状況目標

項目		平成 29 年度 2 月末状況 (入所者 70 名) 要介護度 4.19	平成 30 年度 3 月末目標 (入所者 70 名)
日中オムツ使用率		7 名 10%	6 名 9%
入浴統計	13 名 19%	10 名 14%	7 名 10%
	55 名 79%	58 名 83%	60 名 86%
	2 名 3%	2 名 3%	3 名 4%
食事形態	25 名 36%	36 名 52%	36 名 52%
	20 名 29%	16 名 23%	16 名 23%
	14 名 20%	12 名 17%	12 名 17%
	11 名 16%	5 名 7%	5 名 7%
	0 名 0%	1 名 1%	1 名 1%
褥瘡者		1 名	0 名
身体拘束		0 名	0 名
看取り介護実施※		10 名 32%	15 名 85%

※看取り介護実施率＝看取り介護実施者/全退所
(急死除く)

【特養】

(単位:千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 29 年度実績	28,711	30,435	28,933	29,778	29,533	29,051	176,441
平成 30 年度目標	28,934	29,957	28,925	29,966	29,975	28,925	176,682
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年度実績	27,987	29,798	29,588	29,500	26,123	29,063	348,500
平成 30 年度目標	29,957	28,889	29,949	29,957	27,086	29,957	352,477

※平成 29 年度実績の 2 月・3 月分は目標の数値です。

平成 30 年度 サンライフ土山ショートステイ

事業計画書（案）

今年度は4月にサンライフ西庄の特養がオープンし、土山ショートからもロング利用の方が何名か特養入所する予定である。家族へのフォロー、西庄職員への引き継ぎをしっかりと行い、安心して施設を移れるよう支援していきたい。特に4月は利用者様の入れ替わりが多く現場の混乱が予想されるが、職員一人一人が自分の行うべき業務をしっかりと遂行し、事故なく利用者様に安心して過ごしていただける場を提供していく。

また、今年度は4月に介護報酬の改正があり、ユニット型短期入所生活介護では基本報酬が微増（4～10単位）する。新規加算も出来たが医療との連携を前提としており、看護体制加算の取れていない現在の土山ショートステイでは取れないものがほとんどであるため、昨年度と大きな変化はないものと思われる。

1. 活力ある職場作り

- I. 経験年数が少ない職員や技術不足の職員に対して介護講習を実施し、技術の底上げ・向上を図る。近年、大柄な利用者様が増えてきている為、スライディングボード、シート、グローブの使い方を指導し、積極的に活用し介護負担の軽減を目指す。また、腰痛予防ベルトなどを併用することで、腰痛予防に努める。
- II. 中堅職員に対し仕事のやりがい・責任感を持たせるため、施設委員やユニット内の中心的な仕事を担っていくよう、割り振りを行う。リーダー職員には、介護報酬改正の内容の説明や契約業務が1人で行えるように指導を行う。
- III. ショートステイは退所日に入浴を行う関係上、ほぼ毎日入浴介助を行っている。現場職員から負担が大きいとの声が上がっている為、入浴専門の非常勤職員の雇用を検討し、負担軽減を目指す。
- IV. ショートステイの職員間の情報共有の為に職員連絡ノートを使用し、伝えたいことや、家族からの要望、介護で気付いたことなどを記入するようにしている。気付きなどが増えてきて書き込みが増えてはいるが、特定の職員ばかりが書きこんでいることが多いため、全職員に積極的に書き込んでいくよう指導を行う。また、勤務前には必ず目を通し、押印することを徹底させる。
- V. リフレッシュ休暇として、連続して5日程度のまとまった休みが取れるよう勤務表を組む。

2. 接遇・電話対応について

- I. 昨年より電話対応について力を入れているが、メモし忘れたり、相手の会社名、氏名、電話番号、用件、かけ直すのかなど、どれかが抜けていたりすることが多い為、今年度も引き続き電話対応の仕方を指導していく。電話対応ひとつで苦情に繋がること

るという認識を、職員に持たせていく。

- Ⅱ. 短期のショートステイであっても、家族様が面会に来られる事が増加している。服装・髪形・言葉使いなどを職員同士相互チェックし、不快に感じる所があれば直していく。家族様とよりよい関係が築け、もう一度利用してみたいというショートステイを目指す。

3. 事故の防止

ショートステイでは、久しぶりに利用される方もおり、状態が変わっていることが度々ある。その利用者様に対し、以前と同じような対応をしてしまい、事故につながってしまうことも多いため、ケアマネから事前に情報収集をすることはもちろん、利用中も気付いたことがあれば、すぐにフェイスシートを更新し、職員間で情報を共有していく。また、ロング利用の方に関しては、同じ方が似たような事故を繰り返される傾向がある。職員間で事故の情報が共有されておらず、事故が起こったことさえ知らない職員がいることもある。事故報告書を出して終わりにするのではなく、その後しっかりと部署内で話し合い、再発防止対策を徹底していく。

4. 介護報酬改正について

ユニット型短期入所生活介護基本報酬比較

(単位)

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
旧報酬	508	631	677	743	814	880	946
新報酬	512	636	682	749	822	889	956
差額	4	5	5	6	8	9	10

基本報酬が増加することにより、ひと月に約 2 万円の増収が見込まれる。

その他新設された加算で取れる可能性があるものとして、認知症専門ケア加算（Ⅰ） 3 単位／日がある。日常生活に支障を来すおそれのある症状若しくは行動が認められることから介護を必要とする認知症の者の占める割合が 2 分の 1 以上で認知症介護に係る専門的な研修を修了すればとれる可能性あり。現段階ではどのような研修を受ければよいのか具体的には書いておらず、要件もあやふやな所が多いため、介護保険課と連絡をとりながら、算定できるようであれば積極的に加算を取るようにしていく。

5. 収入・利用者様の確保

今年度は月平均稼働率98%を目標とし、利用者様の獲得に努めていく。昨年に御立・土山ショートステイのホームページを作成し、ネット上で空室が確認できるようにしたが、まだまだ認知度が低く、収入増加に繋がっていない状況である。こまめに部屋情報を更新するとともに、ケアマネやソーシャルワーカーへの営業の際、ホームページの活用を勧めていく。上記営業活動に力を入れていくとともに、契約が出来る社員の育成にも力を入れていく。現状 1 人しか契約できる職員がおらず、家族様との契約日の都合がつきにくいことも多い。契約できる職員を増やすことで契約日の都合をつけやすくし、利用者様獲得に繋げていきたい。また、新規利用者様獲得だけでなく、今利用して頂いている利用者様・家族様の満足度を高め、単発の利用で

終わるのではなく、定期的に利用して頂けるようなサービスを行っていく。そのためには、利用者様や家族様の関心の高い、リハビリやレクリエーションの見直し、強化を行なっていく。

入院ベッドの利用や、ロングから特養にスムーズに移行させるために特養相談員と密に連携をとることはもちろん、新規入居希望者の事前面談など、看護師とも協力し、ベッドに空きが出ないよう他部署との協力を行なっていく。

6月にサンライフ西庄のショートステイがオープン予定となっている。御立・土山・西庄とショートステイ間で連携を取り、情報の共有、ベッドの有効活用を行なっていきたい。

平成 30 年度の目標収入

(単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 29 年度実績	3, 893	4, 233	3, 216	4, 872	3, 111	4, 805	24, 130
平成 30 年度目標	3, 862	4, 003	3, 862	4, 003	4, 003	3, 862	23, 595

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年度実績	3, 415	3, 244	4, 319	4, 369	3, 282	3, 930	46, 689
平成 30 年度目標	4, 003	3, 862	4, 003	4, 003	3, 458	4, 003	46, 927

※平成 29 年度実績の 2 月・3 月分は目標の数値です。

平成 30 年度の目標利用人数

(単位：人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 29 年度実績	303	321	301	319	308	293	1, 845
平成 30 年度目標	294	304	294	304	304	294	1, 794

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年度実績	257	265	302	331	272	301	3, 573
平成 30 年度目標	304	294	304	304	275	304	3, 579

※平成 29 年度実績の 2 月・3 月分は予想の数値です。

平成 30 年度特別養護老人ホームサンライフ土山（医務）

事業計画書（案）

平成 30 年度は、医療、介護提供体制の改革が大きく動いている中、4 月からの診療報酬、介護報酬同時改定では、高齢者の自立支援や重度化防止に対する配分を手厚くすることでサービスの質向上が期待される。

本年度は、このような状況を踏まえ、Ⅰ. 自立支援と重度化防止に資する質の高い看護の提供①機能訓練②褥瘡予防ケア③栄養管理④事故防止⑤健康管理⑥看取り緩和ケア Ⅱ. 新たな加算算定 Ⅲ. 人財育成、看護体制の確保を図る事を掲げ、他職種と協働でのチーム強化をはかり、入居者一人ひとりの安全で快適な生活と健康を支え信頼される施設を目指す。

1. 自立支援と重度化防止に資する質の高い看護の提供

Ⅰ. 機能訓練

- ・高齢化が進み、可能な限り自立して日常生活を行うことができるようなケア、サービスを他職種連携・協働し提供する。特にリハビリテーションを充実させていくことで、寝たきりを防ぎ、必要な生活行動がとれることを目標にリハビリテーションを行う。現在、機能訓練指導員がリハビリテーションを計画、実施しているが、看護師として意見、アドバイスを伝える。
- ・快適で安楽な排泄管理を提供するため、他職種と連携し個々に応じた排泄の「自立」を考える。排尿パターンを知り、個々にあったオムツ・パッドを選択する。オムツ内の皮膚トラブルを予防するために、正しいスキンケアや予防的なスキンケアを実践する。夜間頻尿等医師と相談する。他職種と連携し排泄支援計画の作成及びそれに基づく支援を実施し、高い評価を行う。

Ⅱ. 褥瘡予防ケア

- ・現在、サンライフ土山では、褥瘡ゼロであるが、今年度より褥瘡マネジメント加算が算定できる。その上で、引き続き他職種と協働しながら褥瘡管理計画、実施評価していく。
- ・他職種と協働し褥瘡発生予防ケアとして、各種マットやクッション類の適切な使用やシーツのしわを取り除く等の体圧管理、栄養管理を行う。

Ⅲ. 栄養管理

- ・低栄養リスク改善加算により、嚥下状態の確認、摂取状況、医師への報告医療面からのアドバイスを行う。
- ・食事形態がその方にあっているか確認し、u p 出来るか等判断していく。
- ・食事量減少等あれば、その原因を考え食事・栄養調整を他職種と行う。

IV. 事故防止

- ・誤服薬、転倒・転落による骨折等事故防止にむけて、リスク委員の開催、安全管理のマニュアル、業務手順の見直し、職員の再教育・研修を実施する。
- ・転倒のハイリスク者をピックアップし、重点的に予防の対策をとっています。転倒の要因を取り除き、骨折しないように衝撃吸収マットを敷いたり、離床センサーの活用、介護カメラ等の体制を強化する。
- ・精神科医師定期的療養指導を受けている。認知機能の低下を防止、認知症による BPSD の予防の取り組み、日常生活リズムを保ち落ち着いて生活できるよう支援し事故防止する。
- ・入院者数の増加や死亡者数の増加により回転が速くなるが、利用者の把握が十分にできるよう他職種と情報を共有し事故発生を予防する。そのためにも入院者数減少も課題である。

V. 健康管理

- ・入居者に対しては配置医の協力のもと異常の早期発見と適切な治療を促す。また、施設全体の安全な環境を確保する。
- ・昨年、入院の多くが肺炎であった。対策として、口腔内をいつも綺麗にしておくことや寝る姿勢等日常生活の工夫をし、誤嚥しないように唾液腺マッサージや嚥下体操を施行し肺炎予防に努める。
- ・感染性胃腸炎やインフルエンザの発生の予防や蔓延の防止、発症者の状態管理を行う。昨年、インフルエンザ等の発症なし。本年度も発症しないよう周知徹底する。
- ・職員の健康（健診・メンタルヘルス・腰痛予防等）の保持増進に配慮する。

VI. 看取り緩和ケア

- ・入所時に、当施設の看取り介護の指針を説明し、ご家族様に理解同意を得るようにする。その入所時意向確認書を一部変更した。家族様もご高齢の方が多いので、意向確認時、人工呼吸器、胃瘻、経鼻経管栄養、中心静脈栄養等が、理解しやすいように意向確認書の裏にそれらの用語説明を追加した。
- ・昨年度のターミナルケアでの看取りは 13 名であった。終末期の高齢者が増えているが、他職種と連携し看取りケアの充実とその方の尊厳を重視した看取りの体制の確保を目指す。
- ・自力喀痰喀出できない入居者に、4 名の介護職員（認定特定行為業務従事者）と連携し吸引等行う。

2. 新たな加算算定

- ①排泄支援加算 ②褥瘡マネジメント加算 ③低栄養リスク改善加算 ④口腔衛生管理加算 ⑤看取り介護加算（Ⅰ）
- ⑥生活機能向上連携加算は導入検討
- ⑦看取り介護加算（Ⅱ）、配置医師緊急時対応加算は、看護体制（Ⅱ）が算定できた時点で導入

3. 人材育成・看護体制の確保

・施設内研修を行い知識やスキルの向上をはかっていく。年間スケジュールをもとに実施する。

5 月バイタルサインについて 7 月急変時の対応 9 月褥瘡予防 10 月感染

症対策 12 月 看取り介護について 2 月疾患について

(追加) 7 月に急変時の対応を実施し、1 月に自己評価を全職員にしてもらう。不安やできない職員に対し、医務として個別に再教育、指導を行う。

新しい職員が入ると、年 1 回チェックする。

昨年度、サンライフ土山の平均要介護度 4.22 と高く、入居者様の重度化、高齢化している状況において、質の高い看護ができるよう、入居者様と共にサンライフ土山に入所して良かったと言われる施設、医務を目指した看護体制が築けるよう努力していく。

平成 30 年度 特別養護老人ホームサンライフ土山(厨房)

事業計画書 (案)

昨年度は、味付けにおいては一定化とは言えないが、極端に味が濃い・薄い日は少なくなったように思う。また、職員は誰一人辞めることなく安定していたが、職員の高齢化に伴い本人や家族の体調不良により休まざるを得ない事態が出てきている。そうしたことも考慮しながら、安定した厨房運営に努めたい。

1. 味付け・献立について

平成 28 年度から味の一定化を課題に調味料の分量を少しずつ修正してきたため、誰が調理してもある程度は同じような味付けで調理できるようになってきている。

献立に関しては昨年同様嗜好調査を行い、嗜好に沿った食事提供ができるよう努める。また、カレーライスや丼は引き続き月に 1 度は提供し、近頃リクエストの多くなっている麺類も前年度より数多く出せるよう献立作成を行い、メニューの充実を図る。

そして、旬の食材を使用するほか、行事食の充実を図ることで季節感のある食事の提供に努める。

2. 衛生管理

職員の勤務年数も長くなってきており、包丁やまな板の使い分けは出来ている。しかし、手袋のままラップや食器を触るといった行為が未だ見られる。慣れから基本的な衛生管理が疎かになってしまわないよう、資料の配布やミニ研修を通して自身の行動を振り返り、衛生管理の徹底を図る。

また、帽子の下にヘアーキャップをかぶる、厨房に入る前に厨房着をコロコロする、調理前・調理後の包丁のチェックをする等を確実にやり異物混入の防止に努める。

3. 厨房職員について

職員は安定しており、勤務年数も 2 年以上がほとんどとなっている。しかし、平均年齢が高くなってきているため、本人や同居家族の体調不良等により仕事を休まざるを得ない、ということが増えてきている。また、体力的な面から勤務日数を減らしてほしいとの要望も出てきている。思わぬ怪我や体調不良も予想されることから、重いものを無理して 1 人で持たない、できるだけ連続勤務を避ける等により、長く働いてもらえるよう環境を整える。

急な勤務変更にも対応できるよう、通し勤務のできる職員を増やしていきたい。

4. 栄養ケアマネジメントについて

(人)

	低リスク	中リスク	高リスク
平成 30 年 2 月	39	29	2
平成 31 年 3 月	44	26	0

平成 29 年 2 月時点で、低リスク 39 名・中リスク 29 名・高リスク 2 名となっており、高リスクの内訳は大幅な体重減少が 1 名、褥瘡が 1 名となっている。

体重減少や褥瘡には高カロリーゼリーやジュース、高たんぱくゼリー等の栄養補助食品を使用し、介護職・看護師と連携しながら平成 31 年度は高リスクが 0 になるよう努める。

また、著しい体重増加も本人の負担となるため、飲み物をシュガーレスにする、おやつをハーブにする等、無理のない範囲から維持または減少に向けてアプローチを行う。

5. 介護保険改定による加算関係

低栄養リスク改善加算 300 単位/月

算定要件として低栄養リスクが「高」であり、新規入所時または再入所時のみとなっているため、5 名程度と予想される。看護師と連携し、低栄養のリスク低減に努める。

褥瘡マネジメント加算 10 単位/月 *3 月に 1 回を限度とする

算定要件として、「関連職種の者が共同して、」とあるように、介護職・看護師とも連携し、食事摂取量や体重減少・栄養補助食品使用等、管理栄養士として今まで以上に褥瘡の予防に努める。

平成 30 年度 デイサービスサンライフ土山

事業計画書（案）

今年度は、介護報酬改定に伴い、サービス提供時間が細かくわかる為、今のままのサービス提供時間のサービスを行うと、報酬の減が見られる。その上で、サービス提供時間の延長、9：00～16：30→8：30～16：30 へ変更する。また、開設し 4 年目を迎えるのにあたって、サービス提供体制強化加算Ⅱの算定及び再度、事業所評価加算が算定可能となった為、算定し収入増を図っていく。一番は、利用者人数を増やすことが、収入増に繋がると考え、営業活動を行い、新規利用者様の確保に努めたい。サービス面では、人材の確保が難しく、新たなサービス展開まで出来ていない。職員あつてのサービス提供である為、今年度は年間を通じて、職員の募集を計画的に行っていく。現在提供しているサービスをきっちり行い、ボランティアや行事ボランティアの受け入れ・実習生の受け入れを積極的に行い、利用者様に満足していただける取り組みを進めていきたい。

1.利用者様ニーズ対応

利用者様のニーズにおいて、体を動かしたい、リハビリ時間をもっと増やしてほしい、外出がしたいと言った声が多く聞かれる。職員とのバランスにおいて、一人一人の利用者様にゆっくり対応することが難しくなっている現状ではあるが、セラバンド・ダンベル等、安価なリハビリ用具を活用し、リハビリの充実を図る。また、引き続き、体操レクを毎日行う。外出時に歩行したり、口腔体操時に口腔体操以外にストレッチをするなど、時間を上手く活用し、ニーズに対応していきたい。

2. 人材の育成・介護技術の向上

4 年目の職員が増え、サービス提供体制強化加算算定に繋がっているが、引き続き、介護技術・知識の習得及び知識・技術等のスキルアップを図る。デイにおいては、限られた時間の中で業務に追われ、研修の時間をとることが難しいが、ミニ研修や写真付きの介護技術の資料を配布し、知識の習得や介護の基本を学んでいきたい。また、今年度もサンライフ土山施設全体の研修に参加し、スキルアップを図る。

3. 職員の募集

今現在、定員 40 名に対し、利用者平均約 30 名の方が利用している。ただ、利用者人数増加は図ることが出来ているが、職員の人数は、増加に至っていない。新規採用しても退職があったり、採用募集をかけるも、まったく応募がないといったケースが見られた。職員の不足による業務負担増から、日々の業務をこなすことに追われ、新たなサー

ビス提供が出来ていないことが、一番の課題となっている。今年度は、支出増に繋がるかもしれないが、人材確保が次の収入増に繋がると考え、毎月一回職員募集をおこなっていく。

4.業務の効率化

今年 1 月より、利用料金の集金方法が、手集金より銀行口座からの引き落としとなり、事務業務の簡素化になっている。効率化に繋がった時間を、利用者様対応にあてていきたい。また、課題となっている記録の簡素化については、今までの手書きでの連絡帳やケース記録の記入から、アプリを活用することにより、記録業務の効率化を図ることを目標としているが、改善点が多く、まだ運用には至っていない。デイサービス間で、情報交換を行い、運用に繋がっていききたい。

5.収入と利用者数の確保について

収入面においては、介護報酬改定に伴い、サービス提供時間が細かくわかる為、今のままのサービス提供時間では、報酬減が見られる。その上で、デイサービスサンライフ土山においては、営業時間（サービス提供時間）の延長、9：00～16：30→8：30～16：30 へ時間変更する。また、開設し 4 年目を迎えるにあたって、サービス提供体制強化加算Ⅱの算定及び再度、事業所評価加算が算定可能となった為、算定し収入増を図っていく。また、利用者数の確保については、地域包括支援センター・居宅介護支援事業所への営業活動を通し、新規利用者様の獲得を図ると共に、利用者様に満足していただける取り組みを行い、利用者様・家族様との信頼関係を構築し、利用日数増を図る。引き続き、サンライフ土山の特養・ショートステイ・居宅・4 月オープンのサンライフ西庄との連携を図り、利用者様の確保に繋がっていききたい。

平成30年度目標利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成29年度実績	31.2	31.0	30.4	29.2	28.0	29.5	29.9/月平均
月合計(人)	781	838	791	760	755	768	4,693
平成30年度目標	30.8	31.1	30.7	30.9	30.9	31.2	30.9/月平均
月合計(人)	770	839	798	803	834	780	4,824

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
平成29年度実績	28.0	30.4	30.7	29.4	30.4	30.4	29.9/月平均
月合計(人)	729	789	798	736	730	820	9,426
平成30年度目標	31.3	31.4	30.9	30.8	31.0	32.0	31.0/月平均
月合計(人)	845	816	803	770	744	832	9,634

*平成 29 年度実績 2 月 3 月は予想で入れています。

平成 30 年度目標収入

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小 計
平成29年度実績	6,052	6,589	6,170	6,036	5,914	5,865	36,626
平成30年度目標	6,055	6,601	6,270	6,307	6,549	6,115	37,897
差異	3	12	100	271	635	250	1,271

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
平成29年度実績	5,611	6,265	6,262	5,790	5,613	6,395	72,562
平成30年度目標	6,620	6,397	6,301	6,038	5,830	6,509	75,592
差異	1,009	132	39	248	217	114	3,030

*平成 29 年度実績 2 月 3 月は予想で入れています。

平成 30 年度 サンライフ土山居宅介護支援事業所

事業計画書（案）

開設 2 年目を迎えると同時に、居宅介護支援費基本報酬と加算の改定が、実施される。今後、さらに医療と介護の連携強化を求められる為更なる業務の効率化を図り、速やかにサービス提供に繋がられるように配慮し安定した事業所運営に取り組む。

1. 基本報酬改定に向けての対策

- ・ 今年度の報酬改定により、医療に対する情報提供、カンファレンスの参加等を確実なものとし早期対応を徹底する。
- ・ サンライフ土山居宅介護支援事業所が適正な基本報酬を得られるように利用者のアセスメントをしっかりと行い、適正な介護度であるかを見極め、区分変更などの対応に力を入れる。

2. 他事業所との連携、営業活動の強化

他事業所から信頼される活力がある職場を目指し、地域の民生委員や地域包括支援センターとの関わりを密にとる事で、営業活動の強化に繋げ安定した顧客獲得を行なう。

3. サービスの質の向上

専門知識の向上

常に情報を取得するため、兵庫県 姫路市主催の公的な研修については積極的に参加する。研修会での配布資料の内容や情報は事業所内で共有し専門知識の向上に努める。

外部研修	介護支援専門員専門研修・・・公募後 対象者全員
	包括的・継続的ケアマネジメント支援研修・・・年間 4 回 全員
	兵庫県・姫路市など主催の研修会・・・開催時
	その他案内等によるもの・・・開催時
内部研修	倫理、個人情報保護に関する勉強会・・・ 全員
	情報の収集・共有・・・随時 全員

4. 介護予防支援

総合事業への移行や軽度者のサービス利用に関する正確な情報を把握し地域包括支援センターより委託を受けた利用者に適正なサービスが提供出来るよう努める。地域との繋がりが重要となる中で各地域包括支援センターとの連携を図り、住み慣れた地域での安全で安心した生活が継続出来るよう支援する。

5. 年間収入の予測

<総収入 予想>

(単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 29 年度実績		839	720	761	774	786	3880
平成 30 年度目標	801	843	819	819	843	890	5015
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年度実績	800	879	867	838	819	810	8893
平成 30 年度目標	801	729	751	819	843	890	9848

<居宅介護支援費 受入予想>

(単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 29 年度実績		788	660	637	682	692	3459
平成 30 年度目標	801	729	751	786	786	797	4650
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年度実績	711	789	753	727	723	722	7884
平成 30 年度目標	801	843	819	819	843	890	9665

<介護予防支援費 委託受入予想>

(単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 29 年度実績		42	70	71	68	71	322
平成 30 年度目標	71	67	63	63	67	67	808
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年度実績	72	69	69	89	75	75	771
平成 30 年度目標	67	71	71	67	67	67	808

<訪問調査 委託受入予想>

(単位：千円)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
10	8	16	21	16	16	87
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
16	18	27	21	16	13	198

<年間利用者数の予測>

(単位：人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
要支援	19	18	17	17	18	18	18	19	19	18	18	18
要介護	64	64	66	69	69	70	72	74	72	72	74	78

* 平成 29 年度 2 月、3 月は予想実績になります。

平成 30 年度 サンライフ土山居宅介護支援事業所

事業計画書（案）

開設 2 年目を迎えると同時に、居宅介護支援費基本報酬と加算の改定が、実施される。今後、さらに医療と介護の連携強化を求められる為更なる業務の効率化を図り、速やかにサービス提供に繋がられるように配慮し安定した事業所運営に取り組む。

1. 基本報酬改定に向けての対策

- ・ 今年度の報酬改定により、医療に対する情報提供、カンファレンスの参加等を確実なものとし早期対応を徹底する。
- ・ サンライフ土山居宅介護支援事業所が適正な基本報酬を得られるように利用者のアセスメントをしっかり行い、適正な介護度であるかを見極め、区分変更などの対応に力を入れる。

2. 他事業所との連携、営業活動の強化

他事業所から信頼される活力がある職場を目指し、地域の民生委員や地域包括支援センターとの関わりを密にとる事で、営業活動の強化に繋げ安定した顧客獲得を行なう。

3. サービスの質の向上

専門知識の向上

常に情報を取得するため、兵庫県 姫路市主催の公的な研修については積極的に参加する。研修会での配布資料の内容や情報は事業所内で共有し専門知識の向上に努める。

外部研修	介護支援専門員専門研修・・・公募後 対象者全員
	包括的・継続的ケアマネジメント支援研修・・・年間 4 回 全員
	兵庫県・姫路市など主催の研修会・・・開催時
	その他案内等によるもの・・・開催時
内部研修	倫理、個人情報保護に関する勉強会・・・ 全員
	情報の収集・共有・・・随時 全員

4. 介護予防支援

総合事業への移行や軽度者のサービス利用に関する正確な情報を把握し地域包括支援センターより委託を受けた利用者に適正なサービスが提供出来るよう努める。地域との繋がりが重要となる中で各地域包括支援センターとの連携を図り、住み慣れた地域での安全で安心した生活が継続出来るよう支援する。

5. 年間収入の予測

<総収入 予想>

(単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 29 年度実績		839	720	761	774	786	3880
平成 30 年度目標	810	804	830	870	869	880	5063
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年度実績	800	879	867	838	819	810	8893
平成 30 年度目標	902	932	917	907	926	970	10617

<居宅介護支援費 受入予想>

(単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 29 年度実績		788	660	637	682	692	3459
平成 30 年度目標	729	729	751	786	786	797	4578
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年度実績	711	789	753	727	723	722	7884
平成 30 年度目標	819	843	819	819	843	890	9611

<介護予防支援費 委託受入予想>

(単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 29 年度実績		42	70	71	68	71	322
平成 30 年度目標	71	67	63	63	67	67	398
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年度実績	72	69	69	89	75	75	771
平成 30 年度目標	67	71	71	67	67	67	808

<訪問調査 委託受入予想>

(単位：千円)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
10	8	16	21	16	16	87
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
16	18	27	21	16	13	198

<年間利用者数の予測>

(単位：人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
要支援	19	18	17	17	18	18	18	19	19	18	18	18
要介護	64	64	66	69	69	70	72	74	72	72	74	78

* 平成 29 年度 2 月、3 月は予想実績になります。

平成30年度 特別養護老人ホームサンライフ西庄 事業計画書

平成30年度ささゆり会経営スローガンである「活力ある職場を提供し、生産性を上げる！」をもと新しい職員への教育・連携・接遇を中心に職員の資質を高め入居者様・家族様の満足されるサービス提供を目指していく。

1. 活力ある職場づくり

I マニュアルの整備

新入職員が安心して業務が出来るよう、夜間の緊急時等、マニュアルを整備し、不具合が出る場合は協議し、更新することで、職員が安心して業務が行えるにする。

II 接遇の徹底

入居者様・家族様からの信頼関係には「身だしなみ」や「言葉使い」を正し、お互いに注意を行い、丁寧なコミュニケーションが行える力を身に付ける。

2. 連携強化

I 家族・他職種との連携

専門職種がお互いにフォローと理解を示しながら、チームアプローチにより個々の入居者様に質の高いサービスが提供出来るように連携をする

II 居室担当を配置し、入居者様・家族様との相互コミュニケーションより介護の理解を深め、共同での介護を目指し家族の満足度を高める。また、上司や経験の高い職員により経験の浅い職員へフォローを行うことで、居室担当のレベルアップ及び能力のボトムアップを行う。

3. ICTの活用

職員の負担を軽減し、かつ効率的な業務を目指し、iPadを使用した記録の活用やカメラを使用した見守りの強化を行う。また超低床ベッドを導入し事故の軽減・職員の負担軽減を目指す。

4. 収入の確保

4月に19名を順次入所頂き5月末に29名満床を目指す。また、ショートステイ・病院との連携及び、施設内での医療力を高め入院を防ぎ入所率98%以上を目指していく。

年間収入目標

(千円)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
H30年度目標	4,692	9,383	11,696	12,082	12,112	11,697	61,661
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H30年度目標	12,095	11,699	12,165	12,093	10,998	12,086	135,454

平成30年度 ショートステイサンライフ西庄 事業計画書

平成30年度ささゆり会経営スローガンである「活力ある職場を提供し、生産性を上げる！」をもと新しい職員への教育・連携・接遇を中心に職員の資質を高め入居者様・家族様の満足されるサービス提供を目指していく。

1. 活力ある職場づくり

I マニュアルの整備

新入職員が安心して業務が出来るよう、夜間の緊急時等、マニュアルを整備し、不具合が出る場合は協議し、更新することで、職員が安心して業務が行えるにする。

II 接遇の徹底

入居者様・家族様からの信頼関係には「身だしなみ」や「言葉使い」を正し、お互いに注意を行い、丁寧なコミュニケーションが行える力を身に付ける。

2. 連携強化

I 家族・他職種との連携

専門職種がお互いにフォローと理解を示しながら、チームアプローチにより個々の入居者様に質の高いサービスが提供出来るように連携をする

II 居室担当を配置し、入居者様・家族様との相互コミュニケーションにより介護の理解を深め共同での介護を目指し家族への満足度を高める。また、上司や経験の高い職員により経験の浅い職員へフォローを行うことで、居室担当のレベルアップ及び能力のボトムアップを行う。

3. ICTの活用

職員の負担を軽減し、かつ効率的な業務を目指し、iPadを使用した記録の活用やカメラを使用した見守りの強化を行う。また超低床ベッドを導入し事故の軽減・職員の負担軽減を目指す。

4. 収入の確保

6月で9名の入所を目指す。その後、稼働率98%を目標に、次に利用される方を確保し、グループホームや特別養護老人ホームと連携し、入院者の受入れの調整を図り収入を確保する。

年間収入目標

(千円)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
H30年度目標	—	—	2,394	3,151	3,152	3,050	11,747
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H30年度目標	3,152	3,050	3,151	3,152	2,808	3,151	30,212

平成30年度 グループホームサンライフ西庄 事業計画書

平成30年度ささゆり会経営スローガンである「活力ある職場を提供し、生産性を上げる！」をもとに最新機器を活用する事で業務効率を上げ、活力ある職場作りを構築する。気配り・目配り・心配りが出来るチームケア目標とし、魅力あるサービス提供を目指していく。

I. ここに来てよかったなと思える環境作り

入居者様がそれぞれ役割を持って家庭的な雰囲気のもとで共同生活を送る事が出来るよう環境作りを行う。

① 人材育成

理念と方向性を明確にし統一したチームケアが出来るよう、報告・連絡・相談が徹底出来る環境を構築する。又、各月の担当者が研修を実施し、認知症ケアの専門性を高めサービス提供に繋げていく。

② アクティビティの定着

入居者のニーズを把握する事から始めていく。外出・外食の施設外での活動、施設内においては、おやつ作りや屋上にある花壇で花や野菜を植え園芸療法を実施していきたい。又近隣へ外出や外食を行い地域交流する事によりサンライフ西庄の存在をアピールしていきたい。

II. 機能維持を目指す

① 筋力維持を目指す

上下肢筋力を維持する事を目的とし、レクリエーション活動や機能訓練を通して筋力維持を目指す。又、毎朝のラジオ体操への参加や屋上や近隣への散歩、自身の趣味や特技を活かし日常生活を送る中で実施できるようにサポートし認知症状の進行を緩やかにしていきたい。

III. 収入の確保

ショートステイとの連携を図り、居宅・地域包括・病院への営業活動を行い3月に満床になるよう目指していきたい。

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
H30 年度目標					1,945	2,643	4,588
年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H30 年度目標	3,502	4,135	5,044	5,815	6,200	6,865	36,167

平成 30 年度 地域密着型特別養護老人ホームサンライフ西庄(厨房)

事業計画書（案）

厨房業務の立ち上げに伴い、人材の育成、業務の統一化を図り、献立の充実や美味しい食事の提供に努めていく。また、衛生管理を徹底する。

他職種との連携を図り、利用者様の栄養状態を把握し、健康の維持増進に努める。

また、子ども食堂オープンに際し、食を通じての子育て対策・地域交流を図る。

1 人材の育成

非常勤職員を2名採用するため、味の均一化に努める。また、業務の統一化により、定時に食事の提供が行えるように徹底する。

2 献立の充実

季節の食材を取り入れたり、バリエーションに富んだ献立を作成し、利用者様に楽しんで食事をしていただけるように努める。

職員によって味にバラつきが出ないように、味の均一化を図り、一人ひとりの調理技術の向上を図る。

3 衛生管理

大量調理施設衛生管理マニュアルの改正に伴い、改正のあった部分についてはまとめた資料を配布する等をし、職員でマニュアルを把握する。マニュアルに沿って、現在の衛生状態の見直しを行う。特に、調理機器等の消毒・殺菌方法や、手袋の使い方については、定期的に確認する機会を設ける。また、施設で発生した食中毒の情報収集、それを共有することで、衛生管理に対する意識の向上を図る。

4 子ども食堂

今回、サンライフ西庄で初めての取り組みであるため、現在積極的に活動されている子ども食堂を拝見させていただいた。そこで得たものを参考にし、まずは、子ども食堂のPRに力を入れ、多くの方に知っていただく。そして、食を通じての子育て対策・地域交流に繋げていきたい。

特別養護老人ホームサンライフ魚崎

平成30年度事業計画書（案）

今年度は、業務中心の考えとなっている現状から「入居者のより良い生活」を考えた介護を実践する為に、職員それぞれが介護方法等を自ら考え、意見を出し合い、伝える能力をつけ「活力ある職場」を目指していく。また、生産性を上げる為、全職種で協力しあえる体制を作っていく。

1. 活力のある職場作りへの取り組み

I. 職員育成体制の見直し

- ①昨年度のマンツーマン指導では、指導職員の行き詰まり等が見られた為、以前行っていた各年代職員を配置したグループ型の育成方法を再度取り入れ、新入職員と共に指導を行う中堅職員の指導も行えるような体制にする。
- ②随時の指導と共に、月1回育成担当者と育成対象者が育成プログラムやチェックシート等を用い、話し合いを行う。
- ③月1回、相談員・リーダー・育成担当者と会議を行い、各自の課題や指導方針、進捗具合等の情報の共有を行う。
- ④職員会議を定期的に行い、全員で情報の共有を行うと共に、「入居者の生活を考える」内容のグループディスカッションをする時間を作り、普段感じている自分たちの意見を述べる練習を行っていく。

II. 各職員の介護方法の見直し

直接介護の負担が大きく、焦り等から職員のペースで介助を行うなど、雑さが出てきている。入居者の方にあった介助方法をリーダー中心に検討し、各職員の介護方法の確認を行っていく。また、お互いが注意をし合える環境を作っていく。

III. 介護職員としての意識の向上

- ①施設委員活動や・外部研修等への参加を促すなど、各職員のレベルに合った役割を持たせることにより、介護職員の意識向上を図っていく。
- ②高齢者虐待防止に関する部署内研修を年1回実施し、意識の向上を図る。
- ③他部署研修を実施。業務やケア等について客観的視点で観察し、疑問や課題、吸収したい点等、自分で考える場を積極的に設ける事で、介護力の向上を図る。

Ⅳ. 他職種との連携強化

看護師・介護リーダー・相談員が月 2 回話し合いの場を設け、現在の介護・看護の状態の状態を報告。お互いの状態を密に話し合い、連携をとっていく。

2. 経営の安定化への取り組み

Ⅰ. 年間稼働率目標値 99%以上への取り組み

- ①常時男女共に 2 名以上の次期入所者確保を行い、健康診断を行っておく。
また面接は看護師と行き、医療面の確認もしっかりと行う。
- ②ショートステイと連携し、ショートステイの状態を見ながら特養入所に向けて動く。面接もロングショートの際は両相談員で訪問し、情報を共有しておく。
- ③長期入院者に対し、家族や病院への早めのアプローチを実施。特養での対応が困難な場合はショートステイ等の利用も含めた一時退所等も含め、早めの働きかけを行うものとする。

Ⅱ. 平成 30 年度収入目標

(単位 千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 29 年度実績	11,782	11,955	11,944	12,311	12,372	11,572	71,936
平成 30 年度目標	11,580	11,970	11,580	11,970	11,970	11,580	70,650
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年度実績	11,928	11,852	12,033	11,918	11,060	12,245	142,972
平成 30 年度目標	11,970	11,580	11,970	11,970	10,700	11,970	140,810

平成 29 年度 2 月・3 月は収入見込み

平成 30 年 4 月から全国の小規模特養が、一般特養に比べ利益率が高いとの理由で介護報酬が約 4 % 程減少する為、目標が昨年度の実績よりも減少となっている。

- ### Ⅲ. 相談員・介護リーダー・施設管理委員を中心に、具体的に数値を職員に示す事により職員一人ひとりのコスト削減の意識を高め、介護だけでなく施設生活全体を意識したサービスを提供する力を養う。

3. 事故・褥瘡及び感染症対策

I. 特に内出血・表皮剥離の事故が増加しており、全職員の介護方法の確認を行っていく。また、随時使用している物品など環境面の確認も行っていく。

II. 感染症対策委員・看護師を中心に、ノロウイルス・インフルエンザの発生の予防・拡大の防止の為、マニュアルに従った実施訓練を10月に実施する。

III. 褥瘡発生は0件を目指し、「予防」を中心に随時褥瘡対策委員と看護師を中心に介助方法や使用物品の検討を行っていく。

4. その他

I. 職員の心身のリフレッシュを図る為に、各職員が3日程度の休みが確保出来る様に配慮する。

II. 介護支援専門員・介護福祉士・実務者研修・喀痰吸引等の資格取得を積極的に促し、相談員・介護リーダーが進捗状況を確認する。また喀痰吸引に関しては、取得後も実践ができるよう定期的な研修を行っていく。

特養活動計画						
	4月	5月	6月	7月	8月	9月
育成	担当会議	担当会議	担当会議	担当会議	担当会議	担当会議
	指導者会議	指導者会議	指導者会議	指導者会議	指導者会議	指導者会議
研修			他部署研修	看取り研修		
他職種との連携強化	リーダー会議	リーダー会議	リーダー会議	リーダー会議	リーダー会議	リーダー会議
	口腔ケア会議	口腔ケア会議	口腔ケア会議	口腔ケア会議	口腔ケア会議	口腔ケア会議
		看取り・医療的ケア会議				
入所者確保	入所検討会議	入所検討会議	入所検討会議	入所検討会議	入所検討会議	入所検討会議
	面接 1名	面接 1名	面接 1名	面接 1名	面接 1名	面接 1名
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
育成	担当会議	担当会議	担当会議	担当会議	担当会議	担当会議
	指導者会議	指導者会議	指導者会議	指導者会議	指導者会議	指導者会議
研修	感染対応研修	高齢者虐待研修	他部署研修			
他職種との連携強化	リーダー会議	リーダー会議	リーダー会議	リーダー会議	リーダー会議	リーダー会議
	口腔ケア会議	口腔ケア会議	口腔ケア会議	口腔ケア会議	口腔ケア会議	口腔ケア会議
	看取り・医療的ケア会議				看取り・医療的ケア会議	
入所者確保	入所検討会議	入所検討会議	入所検討会議	入所検討会議	入所検討会議	入所検討会議
	面接 1名	面接 1名	面接 1名	面接 1名	面接 1名	面接 1名

以上

平成 30 年度魚崎高齢者介護支援センター(短期入所生活介護)

事業計画(案)

今年度は、与えられる業務のみを行っている現状から脱却する為、利用者と共に生活を考える介護職になるという目標の元、各職員が感じ、考え、しっかり発言し、ケアに繋ぐ事が出来る様、指導、環境、責任ある仕事を整え、育成していく。

昨年度は、新規、短期利用が増加、中長期利用の減少があり、業務やケア、収入への悪影響があった。中長期利用の継続的確保も行い、割合のバランスを取る事で、収入やサービスの向上を目指す。

1. 「感じる」「考える」「伝える」「ケアに繋げる」介護現場の推進

各職員が「感じ」「思う」事を伝えれる様に、情報を与えられるのではなく、主体的に共有する申し送りや職員会議等の改善、部署の各課題について、各グループに分かれ、徹底的に考え、主体的に改善していく等を行う事で、自ら感じ考え、実践する事が出来る介護職の育成を目指していく

I. 「感じ」「考え」「伝える」事が出来る職員の育成

- ・ 各年代に応じ、職員を 2 つのグループ分けを実施。担当利用者や業務、委員会、ケアの事等、議題に挙げ、毎月 1 回グループ会議を行い、考え、発言する力を養っていく。又、各グループリーダーを設置。グループの状況や部署としての方向性について、相談員と共に、毎月 1 回会議を行い、情報を共有していく。
- ・ 部署の課題について、1 年を通して、徹底的に掘り下げ、改善に向けて、考え実践していく 2 人 1 組のグループを設置。1 つの議題について、グループメンバーが中心になり、計画的に検討、実践、評価を行う事で、主体的責任感を養っていく。
- ・ 申し送り時、業務や与えられた情報を共有するのみではなく、情報共有が必要な利用者様に対して、自分が接し、どう感じ考えたのかについて、発言し合い情報共有する時間を設ける。
- ・ 2 か月毎に職員会議を開催。議長を各職員持ち回りで任命。議長を中心として、アンケートや議題、進め方等、主体的に考え、実施していく事で、考え、伝え、共有する為の力を養っていく。
- ・ これまで、引継ぎのみにて、評価、検討があまり行われてこなかった各委員、係りの仕事内容、進め方について、4 月半ばまでに見直しを実施。役割をはっきりさせる事で、現状に即した主体的な活動を行っていく。

II. 快適な個別ケアへの取り組み

- ・ 前年度に引き続き、ロングショート担当を配置。ケアの発案やサービスの立

案だけでなく、荷物管理や消耗物品の把握、家族様との連携等、生活全般のサービスをみていく

- ・ 毎日入れ替わりが激しく、個々快適に過ごして頂ける様、ケアチェック方式を導入。ケア立案担当が中心となり、ケアチェック表を作成、更新。毎日、確認を必ず行う事で、忘れや抜けを防止し、快適なサービスを提供する。

2. 事故予防対策の強化

- ・ 昨年は情報共有を申送り時と週末に必ず行った事で、立ち上がり等激しい方への事故予防に繋がった。今年度も、引き続き行うと共に、様々な種類のセンサーや転倒防止の為の工夫、衝撃吸収マット等駆使し、事故防止へと繋げていく。
- ・ 5、9、1月に事故防止委員会を中心にヒヤリハットや事故報告を元に、時間、場所、状況等のデータを数値化。各職員にも、分かりやすくどこに注意すれば良いか、はっきりさせる事で事故防止へと繋げる。

3. その他

- ・ 出来るだけ連続した休暇が取得出来る様、調整を行い、有給休暇の取得を促していく。また、有給休暇取得率として数値化する事で、少ない職員へ取得していける様、アプローチを行っていく。
- ・ 持ち運び可能な iPad を導入する事で、ケアマネや家族様との情報交換、業務の効率化、荷物管理の向上等行っていく。
- ・ 介護報酬改定により居室単位数の変更が行われるが、個室と多床室との間の報酬の差を適正化する事を目的としている為、大きな増減収には繋がらないと考えられる。現状、各加算の中で看護体制加算の変更等、増収に繋げる為、検討していくものとする。
- ・ 前年度は、ロングショート利用待機者の確保や中期、短期利用者をバランスよくバランスよく確保する事が出来なかった為、中長期利用者の穴埋め等、空床になる事も多く、それが減収へと繋がった。今年度は、バランスよく確保し、中長期待機者へのアプローチも、積極的に行う事で、増収を目指す。

4. 日中利用者数目標

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成 29 年度実績見込み	625	656	643	643	693	631	633	596	631	631	607	651	7,640
平成 30 年度目標	651	672	651	672	672	651	672	651	672	672	607	672	7,915

- ・ 平成 29 年度 2 月 3 月は利用者数見込み
- ・ 日中利用者数 1 日あたり、平均 21.7 名を目指す。

- ・ 入退所業務負担軽減の為、ロング・準ロングを 10 名程度と中期、短期利用者をバランス良く受け入れを行っていく。又、常にロング待機者確保する為に、特養相談員と連携しつつ、定期的に面接を実施していく。

5. 平成 30 年度の目標収入（介護職員処遇改善費含む）

単位（千円）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
平成 29 年度実績	7,397	7,824	7,637	7,732	7,921	7,521
平成 30 年度目標	7,530	7,990	7,530	7,990	7,990	7,530

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年度実績	7,358	6,886	7,044	7,345	6,991	7,530	89,186
平成 30 年度目標	7,990	7,530	7,990	7,990	6,991	7,990	93,041

平成 29 年度 2 月、3 月は収入見込み

特別養護老人ホームサンライフ魚崎特養・短期入所 医務

平成 30 年度事業計画書 (案)

特養入所者様・ショートステイ利用者様の超高齢化、介護度の重度化に伴い、医療、看護の必要度が上がってきている。その中で介護・看護の質の維持向上を推し量りながら、予防の介護・看護の継続実現を目指したいと考える。

1. 特養の褥瘡有症者数をゼロに

- I. 近医で往診可能な皮膚科を見つける事が出来たことで、主治医に相談しながら積極的に治療、指導を受けられるよう働きかけていきたい。
- II. 処置施行中の利用者様の情報共有のカンファレンスを介護職と定期的に継続する。
- III. 効果的な体位変換、座位保持姿勢、保清方法等、それぞれの利用者様にあったものを介護職と共に考えられるよう具体的な評価を発信していく。
- IV. 褥瘡に関する研修や勉強会への参加を介護職と共に積極的に行い、情報伝達、共有できるようにする。
- V. 治癒促進、パット内の環境改善の為、医師と相談しながら排便コントロールを行う

2. 感染症拡大の予防

- I. 感染対応マニュアルの基本としての所作、清潔・不潔の区別をどの職員も覚えられるよう又、初動が遅れない様、感染委員等を通して啓発していく。
- II. 定期的に保健所から手洗いチェッカーを借り、個々に手洗いの見直し、必要性の理解を深められる様、奨励していく。
- III. 感染症発症の実際を経過記録し、拡大があった場合には分析・評価し、内部研修や朝礼で伝達し、職員みんなでフィードバックする。

3. 事故予防に努める

- I. 誤嚥・窒息予防の為、食事の摂取状況や座位姿勢等の観察を行い、又、適した食事が提供できているか介護職・厨房と相談評価を、変化に応じて早期対応できるように努める。
- II. フロア座位中のズレのある利用者様にはその場で座り直しを介護職と共に素早く行い、見過ごす事の無いよう配慮する。
- III. 誤薬防止の為、利用者様の体調観察、内服薬の効果を定期的に評価し、減薬や他の投薬手段への移行等嘱託医に積極的に相談し働きかける。

以上

平成30年度魚崎高齢者介護支援センター（通所介護）

事業計画書（案）

今年度のデイサービスは、ささゆり会運営スローガンである「活力ある職場を提供し、生産性を上げる」また、サンライフ魚崎の介護支援共通目標である「利用者と共に生活を考える介護職になろう」を実現するため、職員会議やお昼の申し送り時に、利用者様へのケアに対し、感じたこと、思った事を発言する時間を設け、利用者様お一人お一人にどのようなサービスを行えばよいか各自が考え発表する。また、細やかな気配り、心配りができるように接遇スローガンを掲げ、朝の申し送り時にはスローガンを唱和し、常に取り組む体制を作り「自ら考え取り組む」事で利用者様の獲得を全職員で取り組む。

外出や遠足は引き続き継続し、近所への散歩やドライブも行い、気分転換を図り利用者様の心身の維持、向上を目指す。

1. 利用者様獲得・加算取得計画

日々の利用者数 30 名を目標とし、1 ヶ月の利用者数を一般型 690 名、予防型 90 名目標とする。

- (I) 利用者獲得に向けての具体的取り組みとして、毎月 1 日、15 日は事業所への営業を行い、状況報告、チラシの配布等を行い、新規利用者を獲得する。

毎月、サンライフ魚崎居宅介護事業所と魚崎北部あんしんすこやかセンターへ利用状況の報告書を提出する。

- (II) 栄養改善加算の算定の取得を目指し管理栄養士と連携をとり、栄養改善加算（150 単位）の候補者の選出を行い算定する。

2. リハビリの実施

利用者様・家族様・ケアマネージャーからの希望がある方、必要性がある方に対しては、引き続き個人に合わせたリハビリを実施。実施内容・実施回数・実施時間・担当者を記載し、定期的に利用者様・家族様へ配布する。

3. 外出・散歩の充実

年間で外出・散歩の計画を立て、実施する。外出の際の出欠の確認用紙配布時期も年間予定の中に組み込む。外出のない月は散歩月間とし「散歩実施表」を作成し 1 日 3～4 名近所の公園等散歩へ行って頂く。

- (I) 年間外出・散歩予定（案）

4 月…桜ドライブ 5 月…バラ園外出 6 月…散歩月間 7 月…散歩月間 8 月…買物外出・お茶外出 9 月…散歩月間 10 月…遠足 11 月…遠足 12 月…買物外出・

お茶外出 1 月…初詣 2 月…梅見ドライブ 3 月…桜ドライブ

4. 人財育成・職員研修

年間で全職員が外部研修への参加を目標とする。自分自身でもどのような研修へ行きたいかを考え、年度初めに確認を行いそれに合った研修への参加を促す。

5. その他

(Ⅰ)消毒用として毎日交換していたピューラックス水(床用・手すり用)を酸性電解水に変更し、経費・業務の削減を行う。

(Ⅱ)経費・業務削減に関して職員は常に意識し、2 か月に 1 回の話し合いの際には 1 人 1 つは発言をする。

(Ⅲ)職員の連続休暇を 5 日間連続で取得できるようにする

(Ⅳ)ノー残業デーを毎週土曜日とし、仕事とプライベートのメリハリをつけ、無理なく長く仕事が続けられるような環境を作る。

平成 30 年度目標人数 (単位：人) ※平成 29 年度 2 月、3 月は見込み

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
H29 年	660	777	721	756	789	772	
月平均	26.4	28.7	27.7	29	30.3	29.6	
H30 年	670	780	735	770	790	750	
月平均	27	29	28	30	29	30	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
H29 年	764	746	710	590	650	700	8,635
月平均	29.3	28.6	27	25	27	26	
H30 年	770	760	720	700	650	750	8,845
月平均	29	29	28/	26	27	28	

平成 30 年度目標収入 (単位：千円) ※平成 28 年度 2 月、3 月は見込み

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
H29 年実績	5,964	7,122	6,599	6,864	7,078	7,079	
H30 年目標	6,145	7,154	6,742	7,063	7,264	6,879	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
H29 年実績	6,972	7,018	6,707	5,512	5,980	6,302	79,197
H30 年目標	7,063	6,971	6,971	6,421	5,962	6,879	81,514

平成 30 年度フレール魚崎中町（認知症対応型共同生活介護）

事業計画書（案）

認知症ケアについての認識を、再度全職員で統一する為、ただ業務をこなすのではなく、根拠や理由を理解して動けるよう、会議での話し合い・研修・現場指導に努める。又、H30 年度介護職員共通目標である「利用者様と共に生活を考える介護職になろう」を実現する為、H30 年度介護職員目標の「思ったこと、感じたことを伝えてみよう、伝えよう」を実践し、一人一人が自ら考え取り組み、活力ある職場を目指していく。

1. 人材育成

- I リーダー配置により、職員の個々の課題等見えやすくなった為、主任とリーダーで情報を共有し指導していく。入居者様に安心して頂く言葉かけ・対応の徹底に努める。又、各自が自分で意識して取り組めるよう、「課題シート」を作り、短期目標・長期目標をあげ、取り組んでいく。
- II 職員会議を基本 2 か月に 1 回行い個々の思いや意見を言いやすい環境を作る。居室担当者が個々の課題やケアの提案・やりがい作りの提案を行う。
- III 入居者様のできる事や、やりがい作り・散歩や日光浴・楽しみ作りに積極的に取り組むことにより、職員も楽しみをもって仕事に取り組めるよう、職員の姿勢・考え方の改善に取り組む。
- IV 内部研修への参加があまりできておらず、中々実践に繋がっていない為、必ず参加する。又、他部署研修にて、客観的視点で観て感じ、介護力の向上を図る。
- V 考察力と全職員の責任感向上の為、月に一回ケアカンファレンスを実施し個々のニーズに対応。正職員が月末までに主任に提出。職員会議にてケアの統一を図る。対象者のケアプランは月初め 5 日を期限とする。
- VI 虐待防止について職員会議で毎回確認・認識を行う。職員同士で注意し合える環境作りに努める。
- VII 新人指導時最低 1 か月は担当者がついて指導。退職者が出る際の人員確保が課題。

2. 認知症ケアの統一

- I 職員会議時、認知症研修を主任が実施していたが、正職員が交代で講師を行うことで、自分自身の勉強にもなり、意欲・責任感・指導力の向上をはかる。
- II 安心される言葉かけ・対応の大切さを接遇委員会を中心に伝え、全員で取り組む。説明・指示・命令・言い切り・友達口調の禁止。
- III 言葉かけ・コミュニケーション力をつける。説明や正論で「させる」のではなく、「したくなる言葉かけ」をその時々の人・状況・状態等を考え取り組む。又、良い言葉かけを共有し、全員での取り組みとする。「したくなる言葉」ノート作成。

3. 事故予防対策

- I 自分が予防対策をする意識を各自が持つよう、委員を中心に啓発していく。
- II 転倒・骨折事故予防の為、多動な方の見守り・職員の連携を強化する。
- III 内出血事故予防の為、適時介護方法の見直し徹底をおこなう。又、事故発見時、再発防止の為の対策を、即時おこなう癖をつける。

4. 経営の安定化への取り組み

- I 新規入居者確保業務や入居判定会議に費やす時間が持てない為、職員を安定させ、常に入居候補者の確保業務を行い、退居時早期入居できるよう取り組む。
- II 転居対象者が出たら、速やかに入居者を確保し、最低限の空日数となる様努める。
- III 体調管理、事故予防に努め、極力入院とならないようサポートに努める。
又、入院時、早期退院に向けてのアプローチをし、受け入れ態勢を整える

5. その他

- I 労働災害・体調不良等が増加している為、特に高齢の職員の勤務形態や時間の調節を行う。急な退職や欠員が懸念され、人員を確保したい。
- II 気持ちのゆとりを持って働けるよう、メンタルヘルスの講師への相談や人員調整・業務調整にて職員の心身の健康管理に努める。
- III 職員の心身のリフレッシュの為、3日以上連続休暇をとり、心身の健康を図る。
腰痛予防の為毎日体操実施。無理のない介助方法を会議で話し合い実践。
- IV 個人面談を年に1回以上行う。
- V 積極的なボランティア導入により、楽しみづくりと共に職員負担軽減を図る。

6. 年間活動計画

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
重点目標	接遇強化 課題シート 作成 外出散歩強化	接遇強化 課題シート の活用 外出散歩強化	接遇強化 食中毒予防	接遇強化 食中毒予防	事故防止 課題シート 評価・見直し 熱中症予防	事故防止 熱中症予防
研修・会議	正職員会議 担当者会議	職員会議 担当者会議	担当者会議	職員会議 担当者会議	正職員会議 担当者会議	職員会議 担当者会議
待機者確保		待機者情報整理	入居判定会議	待機者情報整理	入居判定会議	待機者情報整理
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
重点目標	接遇強化 外出散歩強化	感染症予防 外出散歩強化	感染症予防 課題シート 評価・見直し	感染症予防	事故防止	接遇強化 課題シート 評価・見直し
研修・会議	担当者会議 家族会	職員会議 担当者会議	正職員会議 担当者会議	職員会議 担当者会議	担当者会議	職員会議 担当者会議
待機者確保	入居判定会議	待機者情報整理	入居判定会議	待機者情報整理	入居判定会議	待機者情報整理

7. 年間稼働率

(単位%)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月
H29 年度実績	100	99	100	98	100	98	96	100	96	99	(94)	(100)
H30 年度目標	100	100	100	100	100	98	98	100	98	98	98	100

8. 目標収入

(単位千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
H29 年度実績	5, 283	5, 246	5, 169	5, 195	5, 442	5, 146	
H30 年度目標	5, 300	5, 300	5, 300	5, 300	5, 450	5, 200	
前年度との差異	67	54	131	105	8	54	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
H29 年度実績	5, 183	5, 100	5, 294	5, 316	(5, 100)	(5, 200)	62, 674
H30 年度目標	5, 200	5, 150	5, 350	5, 350	5, 200	5, 250	63, 350
前年度との差異	17	50	56	34	100	50	676

以上

平成 30 年度 介護型ケアハウス サンライフ魚崎

事業計画書（案）

介護職員共通目標である「利用者様と共に生活を考える介護職になろう」及び介護職員目標である「思ったこと、感じたことを伝えてみよう、伝えよう」を実践する為、入居者様一人一人の状態に合わせ、何ができるか、どうすればできるかを入居者様と共に考え、やりがい作りや楽しみ作りに取り組んでいく。今出来ている事をレベルアップできるように、また1日でも長く継続できる様に配慮できるようにする。職員同士のコミュニケーションを今まで以上に図る事で思った事を伝える力を育み、明るく活力ある職場環境にしていく中で入居者様の獲得を行っていく。EPA職員の入職も予定されている為、マニュアルの整備等、受け入れ体制を整備する。

1. 人材育成

- I. 相談員・リーダーが中心となって、業務内容及び介護技術の根拠や目的を再確認し、新入職員・実習生・EPA職員・家族様に説明できるようにする。
- II. 昨年度同様、2年目以降の正職員全員が複数のフロア業務を行えるように勤務を調整し、職員のスキルアップ及びフロア間応援体制強化を図る。
- III. 新入職員から3年目までの職員を対象に年間育成計画に基づいた育成を行い、育成委員会が開催する研修に参加する。
- IV. 正職員は全員1回以上外部での研修に参加する。職員会議で研修内容のフィードバックを行い、学んだ事の周知や自己表現力の向上を図る。
- V. 相談員と職員の面談の機会を年1回以上設け、業務上の悩みや不安の聞き取りを行う。
- VI. 介護福祉士・社会福祉士・介護支援専門員の受験資格を有する職員は対策講座を受講し、資格取得を目指す。相談員・リーダーは進捗状況の確認を毎月行う。

2. 入居者様確保

- I. 年間活動計画に基づき、毎月、事業所への訪問を行い情報の交換を行う。
- II. 主治医及び入院先の地域連携室と連携し入院期間の短縮を行う。相談員の定期的な面会と家族様への状況確認を行う事で、早期退院ができるよう調整を行う。
- III. 医務と連携し、待機者に対し順次面接及び健康診断の依頼を行う。常時2名以上の次期入居候補者の確保を行い突発的な居室の入れ替わりにスムーズに対応できるようにする。必要に応じてショートステイと連携し、ロングショートへの利用に繋げる。

3. 活力ある職場づくり・業務改善

- I. 入居者様それぞれに合った生活や介護を担当職員を中心に再度検討する。
2ヶ月に1回のフロア会議にて見直しを行い、入居者様と関われる時間を増やしていく。
- II. 記録業務の短縮化を図る事を目的にタブレット端末の導入を検討する。
- III. 昨年に引き続きリーダーが中心となり、6ヶ月の目標及び3ヶ月毎のフロア目標を設定する。相談員・リーダー会議の中で目標の達成度や課題についての話し合いを行い、情報の共有や相互のアドバイスを行えるようにする。
- IV. 職員会議及びフロア会議を偶数月で開催し、情報の共有化を図る。職員会議においてはグループワークを取り入れ、チームワークのスキルを養う。
- V. 勤続年数に応じ、リフレッシュ休暇（3日～5日程度）を各職員が取得できるよう、勤務調整を行う。有給休暇の取得が少ない職員に対しては取得を促し、可能な限り公平に休暇が取得できるように配慮する。
- VI. 必要な職員に対してはメンタルカウンセラーへ助言を求め、職員のストレスが軽減できる取り組みを行う。
- VII. 8月にEPA職員4名の加入が予定されている為、相談員及びリーダーでマニュアル等の整備を行い、受け入れ体制を整える。人件費の増加が見込まれる為、進捗状況を見ながら、職員の部署異動等を検討していく。
- VIII. 介護保険法改正に伴い、基本報酬単価が1～2単位アップする。また新たに新設される退院・退所時連携加算、若年性認知症入居者受入加算、口腔衛生管理体制加算、栄養スクリーニング加算が算定できるようにする。空床数を前年度の半分以下にする事、適正な介護度への変更を行い、収入を確保する。

4. その他

- I. 労働災害の発生防止に努める。内部研修により生活意識の向上と対応方法の確認を行う。また、腰痛予防・事故防止・福祉用具の活用について検討を行い、必要に応じて導入を行う。
- II. 事故発生件数の10%削減を目標とし、各階で発生した事故については、事故委員へ連絡し、状況や対策について客観的な視点を介入する事で事故への意識向上に努める。
- III. 各フロアのリーダー及び清掃委員が毎月、設備・備品の適切な手入れ・管理を行う事により、少しでも長く使用できるようにしていく。また必要に応じて修理・更新を行い快適な生活ができるようにする。
- IV. コスト削減委員会を中心に照明や空調の計画的な使用を推進し、無理・無駄のない生活環境の維持及びコストの削減に努める。
- V. 酸性電解水を毎食前後フロアテーブルの清拭、加湿器フィルター清掃に使用する。また他用途の活用についても相談員・リーダーで検討する。

5. 年間活動計画

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
重点目標	接遇強化	腰痛予防	事故防止	腰痛予防	熱中症予防	接遇強化
研修・会議	相談員・リーダー会議					
	職員会議 フロア会議	育成研修 職員面談	職員会議 フロア会議	育成研修	職員会議 フロア会議	育成研修
利用者確保	事業所訪問	事業所訪問	事業所訪問	事業所訪問	事業所訪問	事業所訪問・待機者 情報更新
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
重点目標	腰痛予防	感染症予防	感染症予防	感染症予防	事故防止	接遇強化
研修・会議	相談員・リーダー会議					
	職員会議 フロア会議	育成研修 職員面談	職員会議 フロア会議	育成研修	職員会議 フロア会議	新入職員研修
利用者確保	事業所訪問	事業所訪問	事業所訪問	事業所訪問	事業所訪問	事業所訪問・待機者 情報更新

6. 年間稼働率

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
平成 29 年度 (実績)	98.1	96.5	95.4	98.9	97.4	98.1	96.3	98.7	97.8	96.6	96.0	97.0	97.2
平成 30 年度 (目標)	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	97.5	97.5	97.5	98.3

7. 収入目標

単位：千円

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	上半期合計
H29 年度実績	18,356	18,985	18,446	19,221	18,848	18,133	111,989
H30 年度目標	19,250	19,250	19,250	19,250	19,250	19,250	115,500
前年度差	894	265	804	29	402	1,117	3,511
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年間合計
H29 年度実績	18,348	18,590	18,972	18,696	(18,700)	(19,000)	(224,295)
H30 年度目標	19,250	19,250	19,250	18,750	18,750	18,750	229,500
前年度差	902	660	278	54	50	▲250	5,205

以 上

平成 30 年度介護型ケアハウス サンライフ魚崎医務室

事業計画書（案）

H30 介護支援共通目標：「利用者様と共に生活を考える介護職になろう」

H30 介護職員目標「思ったこと、感じたことを伝えてみよう、伝えよう」

この目標のもと、「活力ある職場を提供し、生産性を上げる」ために、施設において看護師の役割は、健康問題の管理、衛生上の管理指導や助言、医療看護の知識や衛生管理指導等の介護職員へ向けた施設内研修を行うことである。

ケアハウスには、24 時間看護師が常駐しておらず、日々のご入居者様の健康管理においては、夜勤で夜中の様子を把握している介護職員との情報交換がご入居者様の主治医と的確な情報伝達をする上で最も重要である。ケアハウス医務室の看護師は常にご入居者様、ご家族様のことを考え夜勤をしている介護職員、そして 24 時間対応して下さる訪問診療医師の思いに重きを置き、耳を傾ける姿勢であるべき日々従事していくことが今季のスローガンに繋がるのではないかと考える。

1. 健康管理

現在、ケアハウスご入居者様のうち 1 名を除く主治医師が 24 時間対応できないご入居様に対し、体調不良者が生じた折に夜中でも診療に対応して頂けるよう訪問診療医師の導入を行い、医療体制の強化と夜勤介護職の負担の軽減を図るように努める。更に、往診に向けて、ご入居者様の事前情報を作成し訪問診療医師との連携をスムーズに行う。

また、主治医師が病院であるご入居者様に対し相談員とともに地域医療連携室を訪問し、施設と病院との医療連携を図る。そして、夜勤介護職員が、ご入居様の夜間体調不良者が生じた場合、対応に戸惑いや迷わないようにする為、オンコール基準の見直しを行う。看護師間においては、リーダー制を取り入れ業務の負担軽減を図り、巡回受け持ちすることでご入居様のその日の体調が把握出来るようにする。

薬の管理においては、これまで個人ファイルにのみ薬情報を挟んでいたが、医務室内にも薬情報専用ファイルを追加し、変更が生じた場合、『いつから、どのような経過で』生じたのかを把握できるようにする。

2. 看取りの対応

ご家族様と日々積極的に接し信頼関係の構築に努める。看取りを開始するにあたり、ご家族と事前の打ち合わせを早めに行えるよう対象になるご家族様に対し主治医から状態説明をして頂くようにする。悔いの無いよう本人様ご家族の思いに沿えるよう、言葉表示が出来る雰囲気に努める。看取り計画書に意向を書いて頂き、介護職員と共にケアプランに反映させる。また、ご入所時、看取りに関する指針をご説明し、書面にて同意をいただくことが義務づけられているので、生活相談員と連携し確実に実施していきたい。

3. 個別介護への注力

今期も、脱水症、脳梗塞、便秘症、尿路感染症等疾病の予防に注力したい。心不全、腎不全等の持病のある方には、主治医に相談し適切な水分摂取量を提供するよう助言頂き、介護職員と連携を図り症状の悪化に繋がらないように努める。

4. 虐待防止・身体拘束防止

施設全体で開催する年 3 回の全体会議でグループワークに参加する。他部署との交流を通じて、ご入居者様に対し常に言葉遣いや対応態度に注意し、ひと呼吸休んで忙しくても対応するように努めたい。

5. 感染対策

9 月に結核予防の為に年 1 回の X 線定期検診を、施設にて谷向井病院の協力を得て行う。保健所からの情報に基づき感染予防の早期対応に努める。また、主任看護師は、日本医事情報社発信情報をもとに感染拡大の予防に努める。

6. 早期ご入居の為に事前活動

入所判定会議に必ず出席する。ご入居希望者様への相談員による面接に同行し、生活上の医療的な問題を探り情報を把握に努める。入居に問題が無いか、要支援状態に戻らないかなどを慎重に見極める。

以上

平成 30 年度 サンライフ魚崎（厨房）

事業計画書（案）

今年度も、ささゆり会の経営スローガンである「活力ある職場を提供し、生産性を上げる」を実現するため、職員の定着・人材育成に重点を置き、食材費の削減にも取り組む。

1. 職員の定着・人材育成

- I. 厨房職員は比較的年配の非常勤職員（約半数が 65 歳以上、そのうち 3 名が 70 歳以上）も多いため、労働時間の配慮・温度環境の整備に加え、業務内容について具体的に分かりやすく掲示するなど、長期間働きやすい環境を整える。
 - ① 毎日、業務の担当を決め、個々の役割を明確化することで、自ら考え工夫し、業務の効率化につなげていく。また、周囲の状況を見極め、お互いを助け合うことで信頼関係を築く。
 - ② 「自分の身は自分で守る」を合言葉に、安全な業務を呼びかける。
 - ③ 間違いやすい食品類・洗剤類には、分かりやすく印をつける。
- II. 3 年未満の非常勤職員には、個人の能力やスピードに合わせた指導を行い、目標を持ってやりがいのもてる職場となるよう取り組む。
 - ① 新しい業務を覚える前には、栄養士がマニュアルに沿って、丁寧な説明を行い、不安の軽減を図る。また、マニュアルのない業務のマニュアル作成にも取り組み指導方法のばらつきを軽減する。
 - ② 2 年未満の職員には、半年に 1 回は面談を実施し、悩みを相談し、アドバイスが出来る場とする。
 - ③ それぞれの食事形態・食材の種類に応じた切り方や調理方法の統一を図る。
- III. 厨房朝礼(月間目標・挨拶・本日の献立復唱・連絡事項)を今年度も継続し、「笑顔と大きな声で挨拶」の定着と、職員同士が声をかけあい協力しあえる雰囲気作りに努める。
- IV. 毎月行っている部署研修の内容を充実させ、厨房で働く上で必要な、衛生管理・感染症・嚥下機能・法令や虐待防止・身体拘束禁止について学ぶだけでなく、先輩・後輩が対話やコミュニケーションの取れる時間を設けることで、良い関係性を築き、日々の業務につなげていく。
- V. 給食日誌や発注業務など、重複入力や使いにくいと感じている業務に関して、書式の変更や見直しを行い、業務の削減を図ることを、昨年の目標としていたが、正職員の急な退職があり実施出来なかったため、今年度も目標とし、6 月中に見直しを行い、業務の効率化を図る。

2. 衛生管理の徹底

- I. 異物混入等の事故防止の為、今年度も継続して、春季・秋季清掃以外にも2ヶ月に1回は手の届かない所の清掃を行う。また、厨房同様に2ヶ月に1回、ケアハウスのキッチン周辺の見回り・状況把握を行い、必要に応じて清掃を行う。
- II. 電解水の設置（H29.11）により、生野菜・生果物を衛生的に提供出来るようになった。また、介護現場での使用（H30.2.27～）も開始となり感染症予防となることを期待する。今後は、厨房内の掃除にも使用を検討する。

3. コスト削減対策

- I. 鮮魚の業者には、旬で安価な魚の確認（2～3ヶ月に1回）を行い、主仕入先とは、月1回以上は、旬の食材・食材料費等について双方から提案しあい、安全・良質で、安価な食材確保に努め、コスト削減に取り組む。
- II. 水道、ガス、電気について本当に必要な量、時間等を見直し、無駄な使用量の削減に取り組む。また、随時水道の水漏れの修理を行う。

4. 入居者様個々の状態に応じた対応

- I. ケース記録により入居者様の日々の様子や、体重減少率・食事摂取量等をすばやく把握し、入居者様個々に応じた的確な対応を行う。
- II. 2ヶ月に1回の口腔ケアカンファレンス・経口維持会議開催時に、介護・看護と連携し食事形態の見直しを行う。また、積極的に栄養士が現場に出向き、多職種と協働し、情報の共有と意見交換を行う。
- III. ケアハウスのケース会議には積極的に参加し、職員との連携強化、入居者様の状態及びニーズの把握に努める。

5. 食事サービスの充実

- I. 給食委員会等で、職員との連携強化し、ニーズの把握に努め、食事レクリエーション、おやつレクリエーション、選択食などの内容を充実させ、楽しんでもらえるようなサービスを実施する。
- II. 毎月新メニューを考案し、食事に対する意欲が持てるような献立作成を目指す。
- III. 統一した調理法・盛り付けが行えるよう、各料理の写真を撮り、調理する方がイメージしやすい資料を作成途中である、上半期中の実用化を目指す。

6. その他

- I. 温冷配膳車・冷凍冷蔵庫・食器洗浄機等の大型機器、及び食器の長期使用による劣化への対応が必要である。費用、作業効率等も検討しながら、購入や修理などを行う。
- II. 業務に支障のない範囲で有給休暇を取得できるよう勤務を調整する。

以上

平成30年度 サンライフ魚崎居宅介護支援事業所

事業計画書（案）

平成30年4月から介護保険改正により、居宅支援費の変更により収入増が見込まれる。加算要件の変更もあるため漏れのないように書類の整備をしていく。また、法令に基づいているが、個々のケアマネが独自の方法でしている支援の方法、記録の書き方等を可能な限り統一し、担当の変更があった場合もスムーズに引き継いでいけるようにしていく。法令に基づいた手順で行なえるよう、サービス導入手順マニュアルの整備をしていく。経営スローガンである「活力ある職場を提供し、生産性を上げる」を目標とし、事業所内ではチームとしてケアマネージャー同士が助け合い、切磋琢磨しながら全体のスキルアップが図れる関係の構築に努める。

1. 活力ある職場を提供し、生産性を上げる

- I. 昨年度は正職員の割合が多く、収入に対して人件費の支出が多く約400万円の赤字となったが、常勤2名の退職があり、昨年度末より非常勤のケアマネ1名と非常勤の認定調査員の入職あり、人件費は約23%削減でき、目標の収入を維持できれば赤字は解消される見込みである。
- II. 新規・区分変更時、モニタリング等、法令に基づいた手順で行えるようマニュアルを作成することで、手順通りに進められるようにし、作成時・確認作業の軽減を図る。
- III. 事業所内での連携を強化するために定例会議を開催し、利用者様の情報、課題の共有を図る。会議の中で悩みや困っている事を気軽に話し合えるようにしていく。
- IV. 研修や行事へ積極的に参加して各自のスキルアップを図ると共に、文書回覧・定例会議での発表を通じて研修内容の共有を図る。

2. 利用者様獲得・経営基盤の強化

- I. 魚崎北部あんしんすこやかセンターからの新規支援依頼は原則として受け入れを行う。
- II. 特定事業所集中減算の要件に該当するサービスについては所定の手続きを確実にいき、居宅介護支援費の減算を回避する。（福祉用具・通所介護・訪問介護）
- III. 他市町村からの認定調査依頼を積極的に受託していく。

3. 法令遵守

- I. 業務確認表を各ケアマネージャーが毎月作成し、管理者が確認を行う。また、書類に不備がないか確認できるようマニュアルを整備していく。

Ⅱ. 加算要件の書類整備等、ミスがないようにマニュアルを整備すると共に会議等で確認していく。

○ 利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H29年度実績	92	98	93	94	95	102	101	102	101	100	96	96	1,165
H30年度目標	98	99	100	101	101	103	105	106	107	105	100	104	1,229
差異	6	1	7	7	6	1	4	4	6	5	4	8	59

※H29年度2月及び3月は見込み数

○ 収入（居宅介護支援費・介護予防支援業務委託料・認定調査委託料）

(単位：千円)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
H29年度実績	1,371	1,421	1,416	1,374	1,331	1,455	8,368
H30年度目標	1,425	1,433	1,441	1,457	1,447	1,477	8,680
前年度との差異	54	12	25	83	116	22	312
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H29年度実績	1,421	1,425	1,438	1,371	1,371	1,380	16,774
H30年度目標	1,502	1,514	1,531	1,506	1,450	1,493	17,676
前年度との差異	81	89	93	135	79	113	902

※H29年度2月及び3月は見込み額

○ 活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
重点目標	・マニュアル見直し	・マニュアル見直し	・マニュアル見直し	・マニュアル作成	・マニュアル作成	・マニュアル作成
その他	・前年度分書類整理			・パンフレット整理		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
重点目標	・研修参加促進	・研修参加促進	・研修参加促進	・新規利用者確保	・新規利用者確保	・新規利用者確保
その他	・上半期分書類整理			・パンフレット整理		

以 上

平成 30 年度魚崎高齢者介護支援センター

(地域包括支援センター)

魚崎北部あんしんすこやかセンター

事業計画書

「利用者と共に生活を考える介護職になろう」

「思ったこと、感じたことを伝えてみよう、伝えよう」

「迅速にかつ素早く対応できるチームワークの良い明るいセンター」

平成 29 年度は「地域ケア会議」認知症ネットワーク「お魚の会」を通し、地域住民、や役員、事業所、実行委員等と連携し、居場所作りに取り組み、成果を得られた。常にセンター内でカンファレンスを行い情報共有し、虐待や困難事例は連携しセンター職員全員で取り組んだ。今年度は社会福祉士の退職で、新しい職員となるが、スムーズにチームに溶け込めるよう全員でサポートし、30 年度も「迅速にかつ素早く対応できるチームワークの良い明るいセンター」をモットーとする。

1. 高齢者への虐待防止、消費者被害防止、成年後見制度の活用等の権利擁護支援

虐待の通報があれば、センターが一丸となって情報の収集、共有につとめ、緊急性の判断基準フロー図に沿って緊急性の判断をする。東灘区役所あんしんすこやか係に報告し、医療機関、担当のケアマネジャー、サービス事業所などと連携をとりながら迅速な対応に努める。

事業所連絡会等を通して高齢者虐待についての啓発を事業所に向けて行ない、虐待の早期発見・早期対応を促していく。さらに地域住民からの声に耳を傾けて、聞き取り、訪問等を通して虐待の防止に力を注いでいく。

判断力や理解力の低下により在宅生活に支障をきたしている人を根気よく支援していきたい。成年後見制度の活用が必要だと思われる人については、弁護士、司法書士や行政書士、法テラスなど専門機関に相談しながら、利用につなげていく。地域で成年後見制度について講座を開催し、理解を深めていく場を提供する。消費者被害についても同様の対応を継続していく。

2. 認知症サポートネット「お魚の会」の更なる推進

魚崎北部 認知症サポートネット『お魚の会』構築

(平成 29 年度は神戸市から 65,333 円委託料あり 30 年度も同様の委託金額見込み)

7 年目を迎える認知症サポートネットは 30 年度も年 3 回開催予定。

第 1 回目 6 月 20 日 (水)、第 2 回目 10 月 12 (金)、第 3 回目 2 月 20 日 (水)。

30年度は、認知症高齢者の声かけ訓練を開催できるように取り組んで行く。

実行委員を中心に、センターはバックアップしながら、『お魚の会』を運営していく。

介護予防普及啓発事業の推進（神戸市から80万円の委託料あり）

30年度は、年2回開催予定。

第1回目7月18日（水）、第2回目11月21日（水）。

3. 地域包括ケアシステム構築の為、地域ケア会議の推進。（神戸市から12,000円委託料あり。）

29年度は「居場所づくり」をテーマに会議を開き「サロンさかなちゃん」を立ち上げる事ができた。30年度も引き続いて、地域づくりの為「居場所づくり」をテーマに開催予定。

地域包括ケアシステム構築の為、地域ケア会議を開催していく。

5月24日（水） 第1回目 地域での「居場所づくり」について

10月12日（金） 第2回目 「お魚の会」との共催で声かけ訓練

1月16日（水） 第3回目 新たな「居場所づくり」について

・地域別連絡会（ケアマネ支援）

ケアマネ支援の為の連絡会等、毎月テーマを変えて開催していく。地域包括ケアに向けて30年度の目的はセンター間の連携と地域内居宅事業所ケアマネの勉強会によるレベルアップ等を図って、地域に貢献していけるようにする為である。

「東灘あんしんすこやかセンター」と「医療介護サポートセンター」合同にてケアマネ支援の立場から研修会を行っていく。

・区主催 東灘区あんしんすこやかセンター連絡会 月1回（第3月曜日）

・区主催 東灘区ケアネットワーク会議 奇数月（第3金曜日）

・センター主催 ケアマネ支援研修

病院MSWとの連携について 5月

口腔内研修 7月

感染症対策 10月

困難事例検討会 12月

障害者サービスと介護保険適用に関する情報交換会 2月

4. 単身高齢者・老々世帯の孤立化を防ぎ、地域に出かけていけるように。地域支え合い推進員の地域での見守りと居場所づくりの推進。

・健康寿命の延伸をめざした生涯現役社会づくりの推進や介護予防の取り組みを提案している。

昨年度から開始された総合事業への移行として、社協と協議体を作り、再度地域のニーズや課題を救い上げて検討し、「地域支え合い体制」づくりを進めていく。今後は、

ますます住民相互による支え合いの仕組みが必要となってくる。

- ・ 住み慣れた地域で安心してその人らしい生活を続けていけるように、地域支え合い推進員が中心となり、3 職種協力の元、民生委員、友愛ボランティア、マンションの管理人や自治会、婦人会、老人会などと共に連携・協働を図りながらコミュニティづくりを支援していく。又、地域全体でも日中独居の高齢者が増えているので、地域に出かけられるような支援を目指していく。
- ・ 民生委員による高齢者見守り調査の実施と推進員による補足調査で高齢者台帳の作成を行い実態把握に努める。住所地ごとの単位見守りの強化を行う。民生・区社協・地域包括と連携を取り情報提供を行う。
- ・ 「地域見守り活動推進事業」の一環として、神戸市が行う「事業者による高齢者見守り事業」に関する普及・啓発への協力と連携をする。※協力事業者で播州信用金庫、ローソン神戸東支店、佐川急便株式会社、関西電力株式会社、ヤマト運輸株式会社、神戸朝日回(朝日新聞社)、生活協同組合コープこうべ、シューワ株式会社、日新信用金庫、株式会社関西スーパーマーケット、グローバルコミュニティ株式会社神戸支社、大和ハウスネクスト株式会社の協力がある。
- ・ 神戸市の市民病院群からの退院される対象者に対する安否確認体制の構築に、協力し対象者の実態把握に努めて情報提供を行う。

地域包括の行事

- ・ **介護リフレッシュ教室の開催※神戸市より年間最高 36 万円委託料あり。**
介護者を対象にした介護リフレッシュ教室（月の最終水曜日で年 4 回開催予定）
4 月 25 日（水） 体操
6 月 27 日（水） ハンドマッサージ
10 月 31 日（水） フラワーアレンジメント
2 月 27 日（水） 音楽療法
- ・ コミュニティサポートグループの育成支援事業
○L e t ‘ s ゴー体操は自主活動となり 2 年目を迎える。プログラム内容も工夫され、毎回参加される地域の方もおられ、引き続き後方支援行う。
○リバーサロンは、今年度から自主活動となる。（偶数月の第 2 火曜日で年 6 回開催予定。）アンケートを実施し、より参加者が楽しめる内容を検討し、引き続き継続できるように支援する。
○ふれあい喫茶は当法人が行うが、引き続き地域の皆様に楽しんで頂けるように、開催をあんしんすこやかセンターが行う。（奇数月の最終土曜日で年 6 回開催予定）

5. 平成 30 年度介護予防目標収入

H29 年度介護予防請求額		月平均	前年比
請求金額（単位：円） 見込	作成件数	月平均件数	（単位：円）
11, 496, 963	2, 415	201	958, 080
H30 年度介護予防目標額			
11, 730, 881	2, 657	221	977, 573
			目標 104%up

神戸市からの委託料※30 年度 地域ケア会議開催経費、事務経費追加

収入	29 年度	30 年度予想	収益（円）	up 率
人件費	13, 500, 000	13, 500, 000		
事務経費	3, 000, 000	4, 800, 000		
介護予防普及	800, 000	800, 000		
評価事業	60, 000	60, 000		
地域ケア会議	12, 000	24, 000		
地域支え合い	4, 500, 000	4, 500, 000		
介護予防	11, 498, 963	11, 730, 881		
合計	33, 370, 963	35, 114, 911	1, 743, 948	105%UP
支出	29 年度	30 年度予想	支出（円）	up 率
人件費	19, 500, 000	19, 500, 000		
事務経費	2, 450, 000	2, 500, 000		
事業費	600, 000	600, 000		
原価償却費	800, 000	800, 000		
その他	400, 000	400, 000		
合計	23, 750, 000	23, 800, 000	50, 000	101%UP

あんしんすこやかセンター30 年度予定表

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
地域ケア会議		5/24				
お魚の会			6/20			
元気いきいき講座				7/18		
リフレッシュ教室	4/25		6/27			
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
地域ケア会議	10/12 合同			1/16		
お魚の会	10/12 合同				2/20	
元気いきいき講座		11/21				
リフレッシュ教室	10/31			1/31		